基本計画書

基本計画		
事項	記入欄	備考
計画の区分	大学の設置	
フリガナ設置者	カキコホクシン ニイガクコウカクイン 学校法人 新潟総合学院	
フリガナ大学の名称	カイセンモンショクダク イガク 開志専門職大学 （Kaishi Professional University）	
大学本部の位置	新潟県新潟市中央区紫竹山6丁目3番5号	
大学の目的	<p>本学は、専門分野における高度で実践的な専門性を身に付けると同時に、変化に対応する能力や生涯にわたり学び続ける力を備え、創造力と実践力をもって、新たな価値の創造を先導する人材を育成することにより、地域、日本、世界の発展に寄与することを目的とする。</p>	
新設学部等の目的	<p>事業創造学部 事業創造学部では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「経営学分野」として、「経営分野の専門的な知識と技術及び技能の定着と実践力の深化を図り、実社会や職業とのかかわりを通して、高い職業意識や職業観と規範意識、人間関係性に根ざした実践力を高めるとともに、課題を探求し解決する基礎的な能力を養い、地域の資源を新商品や新サービスの開発に活用できる創造的な能力を育てる」ことを教育上の目的とする。 事業創造学部では、「職業人としての倫理観や道德意識、起業家精神などを身に付け、起業家、事業承継者、企業内起業家として、事業活動や商品開発を行うために必要となる専門的な知識と能力に加えて、地域の魅力や特徴に関する知識を有し、地域の資源を新商品や新サービスに活用するための能力と消費者の視点に立って正しく問題を解決するための考え方を身に付けて、地域経済の活性化に貢献できる人材」を養成する。</p> <p>情報学部 情報学部では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報分野の専門的な知識と技術及び技能の定着と実践力の深化を図り、実社会や職業とのかかわりを通して、高い職業意識や職業観と規範意識、人間関係性に根ざした実践力を高めるとともに、課題を探求し解決する基礎的な能力を養い、情報技術を生活様式や様々なサービスなどの充実と向上に活用できる創造的な能力を育てる」ことを教育上の目的とする。 情報学部では、「職業人としての職業観や倫理観、豊かな人間性ととともに、情報技術者としての専門的な知識や技能と実際に活用する能力に加え、地域社会や産業界を取り巻く現状に関する知識を有し、正しく問題を解決するための考え方とユーザーの視点に立った新商品や新サービスを企画・開発するための基礎的な能力を身に付けて、地域社会の情報化に貢献できる人材」を養成する。</p>	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	事業創造学部 (Faculty of Business Innovation and Entrepreneurship) 事業創造学科 (Department of Business Innovation and Entrepreneurship)	4年	80人	—	320人	事業創造学士 (専門職) 【Bachelor of Business Innovation and Entrepreneurship】	平成32年4月	新潟県新潟市中央区 紫竹山6丁目3番5号
	情報学部 (Faculty of Information) 情報学科 (Department of Information)	4年	80人	—	320人	情報学士 (専門職) 【Bachelor of Information】	平成32年4月	新潟県新潟市中央区 紫竹山6丁目3番5号 新潟県新潟市中央区 米山3丁目1番53号
	計		160	—	640			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	事業創造学部 事業創造学科	36科目	36科目	12科目	84科目	124単位		
情報学部 情報学科	35科目	41科目	17科目	93科目	130単位			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新 設 分	事業創造学部 事業創造学科		10 (10)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	19 (19)	1 (1)	23 (7)
	情報学部 情報学科		12 (12)	1 (1)	4 (3)	1 (1)	18 (17)	3 (3)	17 (6)
	計		22 (22)	7 (7)	6 (5)	2 (2)	37 (36)	4 (4)	40 (13)
既 設 分	該当なし		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	計		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
合 計			22 (22)	7 (7)	6 (5)	2 (2)	37 (36)	4 (4)	40 (13)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		19 (17)		0 (0)		19 (17)		
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計			20 (18)		0 (0)		20 (18)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	9,210.14 m ²	0.00 m ²		0.00 m ²		9,210.14 m ²		
	運 動 場 用 地	0.00 m ²	0.00 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		
	小 計	9,210.14 m ²	0.00 m ²		0.00 m ²		9,210.14 m ²		
	そ の 他	0.00 m ²	0.00 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		
	合 計	9,210.14 m ²	0.00 m ²		0.00 m ²		9,210.14 m ²		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
		13,803.32 m ² (13,803.32m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)		0.00 m ² (0.00 m ²)		13,803.32 m ² (13,803.32m ²)		
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	17室	11室	10室		2室 (補助職員0人)		0室 (補助職員0人)		
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		事業創造学部 事業創造学科			20 室				
		情報学部 情報学科			21 室				

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
		冊		種						
	事業創造学部 事業創造学科	3,990 [63] (3,990 [63])	24 [11] (24 [11])	11 [11] (11 [11])	2 (2)	2,874 (2,874)	0 (0)			
	情報学部 情報学科	3,866 [64] (3,866 [64])	29 [16] (29 [16])	16 [16] (16 [16])	2 (2)	2,718 (2,718)	0 (0)			
	計	7,856 [127] (7,856 [127])	53 [27] (53 [27])	27 [27] (27 [27])	4 (4)	5,592 (5,592)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数				
		557.27 m ²		169 席		23,750 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		0.00 m ²		-						
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	教員1人 当り研究 費等	事業創造学部	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
			情報学部		300千円	300千円	300千円	300千円	- 千円	- 千円
		共同 研究 費等	事業創造学部		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	- 千円	- 千円
			情報学部		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	- 千円	- 千円
		図書 購入 費	事業創造学部	18,109千円	200千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	- 千円	- 千円
			情報学部	17,392千円	200千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	- 千円	- 千円
		設備 購入 費	事業創造学部	167,728千円	0千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	- 千円	- 千円
			情報学部	648,051千円	0千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	- 千円	- 千円
		学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		事業創造学部		1,280千円	1,080千円	1,080千円	1,080千円	- 千円	- 千円	
		情報学部		1,580千円	1,380千円	1,380千円	1,380千円	- 千円	- 千円	
		学生納付金以外の維持方法の概要			雑収入等					

図書購入費には、雑誌・電子ジャーナル・データベース等の整備費(運用コスト含む)を含む。

既設大学等の状況	大学の名称	長岡公務員・情報ビジネス専門学校							新潟県長岡市弓町1丁目8番37号	平成30年募集停止 平成31年募集再開 平成31年募集停止 平成31年新設				
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			所在地			
		年	人	年次人	人		倍							
	情報システム科	2	15	—	30	専門士	0.96	昭和57年度						
	ITエンジニア科	3	10	—	30	専門士	0.20	平成8年度						
	情報ビジネス科	2	20	—	20	専門士	0.15	平成11年度						
	CG・Webデザイン科	2	0	—	10	専門士	0.50	平成13年度						
	CG・Webビジネス科	2	10	—	10	—	0.60	平成31年度						
	公務員科	1	20	—	20	—	0.50	平成3年度						
	経理ビジネス科	2	15	—	30	専門士	0.19	平成7年度						
既設大学等の状況	大学の名称	伝統文化と環境福祉の専門学校							新潟県佐渡市千種232	入学定員変更 平成31年10人→20人 令和元年10月1日より設置者を(学)国際総合学園に変更する				
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			所在地			
		年	人	年次人	人		倍							
	伝統建築学科	3	30	—	90	専門士	0.59	平成20年度						
	伝統建築学科	4	20	—	50	高度専門士	0.08	平成25年度						
	既設大学等の状況	大学の名称	長岡こども・医療・介護専門学校								新潟県長岡市弓町1丁目8番34号	入学定員変更 平成30年25人→60人 平成30年募集停止		
		学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率					開設年度	所在地
			年	人	年次人	人		倍						
		医療秘書科	2	25	—	50	専門士	0.24					平成25年度	
		医療ビジネス科	2	25	—	50	専門士	0.16					平成25年度	
医療事務ライセンス科		1	10	—	10	—	0.10	平成27年度						
薬局・調剤事務科		2	20	—	40	専門士	0.52	平成28年度						
こども医療保育科		3	60	—	145	専門士	0.40	平成25年度						
こども保育幼稚園科		2	30	—	60	専門士	0.11	平成25年度						
こども未来教育科	4	—	—	10	高度専門士	0.10	平成25年度							
介護福祉科	2	40	—	80	専門士	0.18	平成25年度							

大学等の名称	上越公務員・情報ビジネス専門学校								所在地
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	取 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	
既 設 大 学 等 の 状 況	医療秘書・事務科	2	15	—	40	専門士	0.95	平成26年度	新潟県上越市北城 町 3丁目4番1号
	ビジネスライセンス科	1	10	—	10	専門士	0.00	平成26年度	
	情報システム科	2	15	—	30	専門士	0.93	平成28年度	
	情報・ゲーム・デザイン科	3	5	—	25	専門士	0.73	平成28年度	
	国際・ITエンジニア科	3	10	—	55	専門士	0.45	平成29年度	
	国際・ITエンジニア科	2	5	—	15	—	0.00	平成30年度	
	国際・ITエンジニア科	2.5	15	—	15	—	0.00	平成30年度	
	プライダル・観光・サービス科	2	15	—	30	専門士	0.40	平成28年度	
	公務員・法律行政科	2	15	—	30	専門士	0.76	平成28年度	
	公務員専攻科	1	10	—	10	—	1.00	平成28年度	
	こども保育幼稚園科	3	20	—	20	—	0.25	平成31年度	
平成31年入学定員 変更25人→15人									
平成31年入学定員 変更10人→5人									
平成30年入学定員 変更25人→20人 平成31年入学定員 変更20人→10人									
平成31年入学定員 変更10人→5人									
平成31年新設 (10月入学)									
平成31年新設									
附属施設の概要	該当なし								

既設専門学校の状況

区分	項目	31年度	30年度	29年度	28年度	平均入学 定員超過率
長岡公務員・情報ビジネス専門学校 工業専門課程 (合計)	入学定員超過率	(0.52)	(0.51)	(0.20)		(0.41)
	入学者数	29	18	2		
	入学定員	55	35	10		
情報システム科(2年制)	入学定員超過率	(1.26)	(0.66)			(0.96)
	入学者数	19	10			
	入学定員	15	15			
I Tエンジニア科(3年制)	入学定員超過率	(0.10)	(0.30)	(0.20)		(0.20)
	入学者数	1	3	2		
	入学定員	10	10	10		
情報ビジネス科(2年制) ※H30 募集停止 ※H31 募集再開	入学定員超過率	(0.15)	—			(0.15)
	入学者数	3	—			
	入学定員	20	—			
CG・Webデザイン科(2年制) ※H31 募集停止	入学定員超過率	—	(0.50)			(0.50)
	入学者数	—	5			
	入学定員	—	10			
CG・Webビジネス科(2年制) ※H31 新設	入学定員超過率	(0.60)	—			(0.60)
	入学者数	6	—			
	入学定員	10	—			
長岡公務員・情報ビジネス専門学校 商業実務専門課程 (合計)	入学定員超過率	(0.48)	(0.55)			(0.51)
	入学者数	80	58			
	入学定員	165	105			
公務員科(1年制)	入学定員超過率	(0.50)				(0.50)
	入学者数	10				
	入学定員	20				
経理ビジネス科(2年制)	入学定員超過率	(0.26)	(0.13)			(0.19)
	入学者数	4	2			
	入学定員	15	15			
ビジネス公務員科(2年制)	入学定員超過率	(0.80)	(0.71)			(0.75)
	入学者数	48	43			
	入学定員	60	60			
ビジネスライセンス科(1年制)	入学定員超過率	(0.20)				(0.20)
	入学者数	8				
	入学定員	40				
総合ビジネス科(2年制)	入学定員超過率	(0.33)	(0.43)			(0.38)
	入学者数	10	13			
	入学定員	30	30			

伝統文化と環境福祉の専門学校 工業専門課程 (合計)	入学定員超過率	(0.44)	(0.32)	(0.57)	(0.10)	
	入学者数	22	13	23	1	(0.35)
	入学定員	50	40	40	10	
伝統建築学科(3年制)	入学定員超過率	(0.63)	(0.43)	(0.73)		
	入学者数	19	13	22		(0.59)
	入学定員	30	30	30		
伝統建築学科(4年制) ※H31 入学定員変更	入学定員超過率	(0.15)	(0.00)	(0.10)	(0.10)	
	入学者数	3	0	1	1	(0.08)
	入学定員	20	10	10	10	
長岡こども・医療・介護専門学校 商業実務専門課程 (合計)	入学定員超過率	(0.28)	(0.27)			
	入学者数	23	19			(0.27)
	入学定員	80	70			
医療秘書科(2年制)	入学定員超過率	(0.32)	(0.16)			
	入学者数	8	4			(0.24)
	入学定員	25	25			
医療ビジネス科(2年制)	入学定員超過率	(0.16)	(0.16)			
	入学者数	4	4			(0.16)
	入学定員	25	25			
医療事務ライセンス科(1年制)	入学定員超過率	(0.10)				
	入学者数	1				(0.10)
	入学定員	10				
薬局・調剤事務科(2年制)	入学定員超過率	(0.50)	(0.55)			
	入学者数	10	11			(0.52)
	入学定員	20	20			
長岡こども・医療・介護専門学校 教育・社会福祉専門課程 (合計)	入学定員超過率	(0.19)	(0.23)	(0.56)	(0.00)	
	入学者数	25	31	17	0	(0.24)
	入学定員	130	130	30	5	
こども医療保育科(3年制) ※H30 入学定員変更	入学定員超過率	(0.25)	(0.31)	(0.64)		
	入学者数	15	19	16		(0.40)
	入学定員	60	60	25		
こども保育幼稚園科(2年制)	入学定員超過率	(0.06)	(0.16)			
	入学者数	2	5			(0.11)
	入学定員	30	30			
こども未来教育科(4年制) ※H30 募集停止	入学定員超過率	—	—	(0.20)	(0.00)	
	入学者数	—	—	1	0	(0.10)
	入学定員	—	—	5	5	
介護福祉科(2年制)	入学定員超過率	(0.20)	(0.17)			
	入学者数	8	7			(0.18)
	入学定員	40	40			

上越公務員・情報ビジネス専門学校 商業実務専門課程 (合計)	入学定員超過率	(0.76)	(0.64)			
	入学者数	19	16			(0.70)
	入学定員	25	25			
医療秘書・事務科(2年制) ※H31 入学定員変更	入学定員超過率	(1.26)	(0.64)			
	入学者数	19	16			(0.95)
	入学定員	15	25			
ビジネスライセンス科(1年制)	入学定員超過率	(0.00)				
	入学者数	0				(0.00)
	入学定員	10				
上越公務員・情報ビジネス専門学校 工業専門課程 (合計)	入学定員超過率	(0.77)	(0.32)	(0.42)		
	入学者数	27	23	15		(0.50)
	入学定員	35	70	35		
情報システム科(2年制)	入学定員超過率	(0.86)	(1.00)			
	入学者数	13	15			(0.93)
	入学定員	15	15			
情報・ゲーム・デザイン科(3年制) ※H31 入学定員変更	入学定員超過率	(1.60)	(0.10)	(0.50)		
	入学者数	8	1	5		(0.73)
	入学定員	5	10	10		
国際・ITエンジニア科(3年制) ※H30 入学定員変更 ※H31 入学定員変更	入学定員超過率	(0.60)	(0.35)	(0.40)		
	入学者数	6	7	10		(0.45)
	入学定員	10	20	25		
国際・ITエンジニア科(2年制) ※H31 入学定員変更	入学定員超過率	(0.00)	(0.00)			
	入学者数	0	0			(0.00)
	入学定員	5	10			
国際・ITエンジニア科(2.5年制) ※H30 開設(10月入学)	入学定員超過率	-	(0.00)			
	入学者数	-	0			(0.00)
	入学定員	-	15			
上越公務員・情報ビジネス専門学校 文化・教養専門課程 (合計)	入学定員超過率	(0.55)	(0.56)			
	入学者数	33	17			(0.55)
	入学定員	60	30			
プライダル・観光・サービス科(2年制)	入学定員超過率	(0.40)	(0.40)			
	入学者数	6	6			(0.40)
	入学定員	15	15			
公務員・法律行政科(2年制)	入学定員超過率	(0.80)	(0.73)			
	入学者数	12	11			(0.76)
	入学定員	15	15			
公務員専攻科(1年制)	入学定員超過率	(1.00)				
	入学者数	10				(1.00)
	入学定員	10				
こども保育幼稚園科(3年制) ※H31 新設	入学定員超過率	(0.25)				
	入学者数	5				(0.25)
	入学定員	20				

学校法人新潟総合学院 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
				開志専門職大学				
				専門職大学新設				
				事業創造学部				
				事業創造学科				
				80	-		320	
				情報学部				
				情報学科				
				80	-		320	
				計	160	-	640	
長岡公務員・情報ビジネス専門学校				長岡公務員・情報ビジネス専門学校				
情報システム科	15	-	30	情報システム科	15	-	30	
ITエンジニア科	10	-	30	高度ITエンジニア科	5	-	15	名称変更、定員変更(△5)
情報ビジネス科	20	-	40	情報ビジネス科	5	-	10	定員変更(△15)
CG・Webビジネス科	10	-	20	CGデザイン科	5	-	10	名称変更、定員変更(△5)
公務員科	20	-	20	公務員科	10	-	10	定員変更(△10)
経理ビジネス科	15	-	30					募集停止
ビジネス公務員科	60	-	120	ビジネス公務員科	50	-	100	定員変更(△10)
ビジネスライセンス科	40	-	40	ビジネスライセンス科	20	-	20	定員変更(△20)
総合ビジネス科	30	-	60	総合ビジネス科	10	-	20	定員変更(△20)
計	220	-	390	計	120	-	215	
				令和元年10月1日より設置者を(学)国際総合学園に変更する				
伝統文化と環境福祉の専門学校				伝統文化と環境福祉の専門学校				
伝統建築学科(3年制)	30	-	90	伝統建築学科(3年制)	25	-	75	定員変更(△5)
伝統建築学科(4年制)	20	-	80	伝統建築学科(4年制)	5	-	20	定員変更(△15)
				建築専科	5	-	5	新設
計	50	-	170	計	35	-	100	
長岡こども・医療・介護専門学校				長岡こども・医療・介護専門学校				
医療秘書科	25	-	50	医療秘書・ビジネス科	25	-	50	名称変更
医療ビジネス科	25	-	50					募集停止
医療事務ライセンス科	10	-	10	医療事務ライセンス科	5	-	5	定員変更(△5)
薬局・調剤事務科	20	-	40					募集停止
こども医療保育科	60	-	180	こども保育総合科	15	-	45	名称変更、定員変更(△45)
こども保育幼稚園科	30	-	60	こども保育幼稚園科	40	-	80	定員変更(10)
介護福祉科	40	-	80	介護福祉科	40	-	80	
計	210	-	470	計	125	-	260	
上越公務員・情報ビジネス専門学校				上越公務員・情報ビジネス専門学校				
医療秘書・事務科	15	-	30	医療秘書・事務科	10	-	20	定員変更(△5)
ビジネスライセンス科	10	-	10	ビジネスライセンス科	5	-	5	定員変更(△5)
情報システム科	15	-	30	情報システム科	10	-	20	定員変更(△5)
情報・ゲーム・デザイン科	5	-	15	情報・ゲーム・デザイン科	10	-	30	定員変更(5)
国際・ITエンジニア科(3年制)	10	-	30	国際・ITエンジニア科(3年制)	5	-	15	定員変更(△5)
国際・ITエンジニア科(2年制)	5	-	10	国際・ITエンジニア科(2年制)	5	-	10	
国際・ITエンジニア科(2.5年制)	15	-	45	国際・ITエンジニア科(2.5年制)	5	-	15	定員変更(△10)
				国際・ITエンジニア科(1年制)	10	-	10	新設
プライダル・観光・サービス科	15	-	30	ホテル・プライダル・旅行科	10	-	20	名称変更、定員変更(△5)
公務員・法律行政科	15	-	30	公務員・法律行政科	10	-	20	定員変更(△5)
公務員専攻科	10	-	10	公務員専攻科	10	-	10	
こども保育幼稚園科	20	-	60	こども保育幼稚園科	5	-	15	定員変更(△15)
計	135	-	300	計	95	-	190	

教育課程等の概要														
(事業創造学部事業創造学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	1①②	1				○							兼1
	英語コミュニケーションⅡ	1③④	1				○							兼1
	英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2①②	1				○							兼1
	英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2③④	1				○							兼1
	中国語コミュニケーション	4③④			1		○							兼1
	韓国語コミュニケーション	4③④			1		○							兼1
	ロシア語コミュニケーション	4③④			1		○							兼1
	情報リテラシー	1①	2				○		1					
	日本語コミュニケーション	1①②	2				○		1					
	現代経済学	1①②	2	2			○		1					
	現代産業論	1①②	2				○			1				
	現代企業論	1③④	2				○			1				
	現代史と国際関係論	1③④	2	2			○		1					
	現代の科学技術	1③④	2	2			○							兼1
	現代実践法学	1①②	2	2			○							兼1
	現代社会学	1③④	2	2			○				1			
	国際動態論	3④	2	2			○		1					
	キャリアデザインⅠ	1①	1				○				1			※講義
	キャリアデザインⅡ	2②	1				○				1			※講義
	キャリアデザインⅢ	3②	1				○							兼1
	ビジネスモラル	1①	1				○							兼1
小計(21科目)	—	—	16	12	3	—	—	—	5	2	3	0	0	兼11
職業専門科目	経済学の基礎	1①②	2				○		1					
	経営学の基礎	1①②	2				○			1				
	経営戦略論	1③④	2				○			1				
	経営組織論	2①②	2				○			1				
	経営戦略策定演習	2③④	2				○			1				
	イノベーションマネジメント	3①②	2				○		1					
	グローバル社長学	3③④	2	2			○		1					
	実践企業革新	4①②	2	2			○			1				
	マーケティング	1①②	2				○		1					
	デジタルマーケティング	1③④	2				○		1					
	流通論の基礎	2①②	2	2			○		1					
	消費者行動研究	2③④	2	2			○							兼1
	実践的統計学	3①②	2	2			○							兼1
	広報戦略の実践	3③④	2	2			○		1					
	会計学	2②	1				○			1				
	財務諸表論	2③	1				○			1				
	簿記概論	1①②	2	2			○					1		
	簿記演習	1③	1				○					1		
	財務諸表分析	3①②	2	2			○					1		
	資金調達の実践	3③④	2	2			○				1			
	実践日本ビジネス法	2③④	2	2			○							兼1
不動産法入門	3①②	2	2			○			1					
不動産取引演習	3③④	2	2			○			1					
企業リスク管理実践	3③④	2	2			○							兼1	
アントレプレナーシップ論	1③④	2				○		1					兼1	
実践ベンチャービジネス	2③④	1				○		1					オムニバス	
ICT活用ビジネス	3③④	2	2			○		2						
トップランナー研究	1②④	2	2			○		1					※集中	
ビジネスモデル研究	2①②	2	2			○			1					

職業専門科目群	ビジネスコミュニケーション コミュニケーションデザイン	1③④ 3①②	2			○	○		1							兼1	
	ビジネスプランの基礎	1③④	2			○			1								
	ビジネスプランの応用	2①②	2					○	1								
	会社設立実習Ⅰ	2③④	4					○	1	1							
	会社設立実習Ⅱ	3①②	4					○	1	1							
	会社設立実習Ⅲ	3③④		4				○			1						
	実践事業承継	3③		2			○									兼1	
	事業承継演習	3④		2				○								兼2	オムニバス
	企業内実習Ⅰ	1③④	2						臨	1	3	1			1		
	企業内実習Ⅱ	2③④	4						臨		1	2	1	1			
	企業内実習Ⅲ	3③④	6						臨	1	3	1		1	1		
	新規商品開発・販売実習Ⅰ	2①②	5						臨		2	1	1	1			
	新規商品開発・販売実習Ⅱ	3①②	5						臨		2	1	1	1			
	地域産業研究科目群	地域経済産業論	1③④	2			○			1							兼1
地域産業研究Ⅰ(農林水産)		2①②		2			○									兼1	
地域産業研究Ⅱ(医療福祉)		2①②		2			○									兼1	
地域産業研究Ⅲ(環境)		2③④		2			○		2								
地域産業研究Ⅳ(ものづくり)		3①②		2			○		1								
地域産業研究Ⅴ(観光)		3③④		2			○									兼1	
地域産業研究Ⅵ(ICT)		4①②		2			○									兼1	
地域産業研究Ⅶ(まちづくり)		4①②		2			○		1								
地域産業研究Ⅷ(カルチャー・エンタテイメント)	4③④		2			○		1									
小計(52科目)		—	72	46	0	—	—	—	25	24	7	6	5		兼14		
展開科目	デザイン・シンキング概論	2①②	2			○										兼1	
	ソーシャルデザインⅠ	2③④	2				○			1							※講義
	ソーシャルデザインⅡ	3①②	2				○			1							※講義
	ソーシャルデザイン実習	3③④	2					○			1						
	新潟と地域社会	1①②	2				○									兼1	
	新潟と地域政策	1③④	2				○									兼1	
	新潟と地域資源	2①②	2				○									兼1	※講義
	地域資源活用の理論と方法	2③④	2				○									兼1	
	地域資源活用の事例研究	3①②	2				○									兼1	※講義
	地域資源活用実習	3③④	2					○	1								
小計(10科目)		—	20	0	0	—	—	—	1	3	0	0	0		兼6		
総合科目	事業計画策定総合実習	4通	4					○	5	4	1	0	0			共同	
	小計(1科目)	—	4	0	0	—	—	—	5	4	1	0	0				
合計(84科目)		—	112	58	3	—	—	—	36	33	11	6	5		兼31		
学位又は称号	事業創造学士 (専門職)	学位又は学科の分野			経済学関係												
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
基礎科目群から必修科目16単位と選択科目4単位以上、職業専門科目群から必修科目72単位と選択科目8単位以上(このうち、地域産業研究科目群より4単位以上)、展開科目群から必修科目20単位、総合科目群から4単位、併せて124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))									1学年の学期区分			4期					
									1学期の授業期間			8週					
									1時限の授業時間			90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報学部情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目	英語コミュニケーションⅠ	1①②	1				○								兼1
	英語コミュニケーションⅡ	1③④	1				○								兼1
	英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2①②	1				○								兼1
	英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2④	1				○								兼1
	中国語コミュニケーション	4③④			1		○								兼1
	韓国語コミュニケーション	4③④			1		○								兼1
	ロシア語コミュニケーション	4③④			1		○								兼1
	情報リテラシー	1①	2				○		1						
	日本語コミュニケーション	1①②	2				○								兼1
	現代経済学	2①②		2			○								兼1
	現代産業論	2①②		2			○								兼1
	現代企業論	3①②		2			○								兼1
	現代史と国際関係論	3①②		2			○								兼1
	現代の科学技術	2④		2			○		1						
	現代実践法学	2①②		2			○								兼1
	現代社会学	2①②	2				○								兼1
	国際動態論	4④		2			○								兼1
	キャリアデザインⅠ	1①	1					○							兼1 ※講義
	キャリアデザインⅡ	2②	1					○							兼1 ※講義
キャリアデザインⅢ	3②	1					○							兼1 ※講義	
ビジネスモラル	1①	1				○								兼1	
小計(21科目)	—	—	14	14	3	—	—	—	2	0	0	0	0	兼19	
職業 専門 科目	情報の基礎	1①	1				○		1						
	トップランナー研究	1④2②	2					○	1						集中
	情報と法律	1③④	2				○		1						
	情報と経営	2①②	2				○		1						
	情報と倫理	3①	1				○		1						
	情報と英語	4①②		2				○	1						
	コンピュータアーキテクチャ	1①	2				○		1						
	オペレーティングシステム	1②	2				○		1		1				
	線形代数	1①②	2				○		2						
	微分積分	1③④	2				○		2						
	確率論	1③④	2				○		1						
	統計学	2①②	2				○		1						
	データ構造とアルゴリズム	1①	2				○		2						
	プログラミングⅠ	1②	2				○		1		1				
	プログラミングⅡ	1③	2				○		1		1				
	ネットワークプログラミング実習	2①②	2						2			1	1		共同
	API実習	2④	2						1		1		1		
	情報通信ネットワーク	1②	1				○		1						
	ネットワーク演習	1③④	2					○	2						
	分散型台帳技術	3①②	2					○	1						※講義
	情報セキュリティ	1③④	2				○		1						
	サイバーセキュリティ演習	2①②	2					○	1						
	サイバーセキュリティ実習	3①②	2						1				1		
	データベースの基礎	1③④	2				○		1		1				
データベース演習	2①②	2					○	1		1					
システムモデリング	1②	1				○				1					
システム開発技術	2①②		2			○		1							
臨地実務実習Ⅰ	2③	5						12	1	2	1	2			
臨地実務実習Ⅱ	3③④	15						12	1	2	1	2			

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	大学英語の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、短めのダイアログ等を題材として、リスニングの入門および基礎固めを行うとともに、文単位を理解を確認・徹底することにより、リーディングにつながる基礎力も固める。それらの活動を通して最低限の短い日常会話、表現のスピーキングをマスターし、同時に簡潔な基本的英文の読解・理解力、簡潔な基本的英文のライティング力を身に付ける。なお、授業の一部においては、アクティブラーニングの形式を取り入れた英会話の授業を実施する。	
基礎科目	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅠの英語力をさらに向上させるため、自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進めながら、発展的なリスニング活動も並行して行なう。その際、ディクテーションを取り入れて、アクティブ・ボキャブラリーを増やすことで、英語作文能力・英語プレゼンテーション力向上のための総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。授業の一部においては、アクティブラーニングの形式を取り入れた英会話の授業を実施する。	
基礎科目	英語プレゼンテーション演習Ⅰ	本科目では、英語によるプレゼンテーションの準備から実施までを学ぶ。複数の人を対象に、特定の目的と内容を持って英語でプレゼンテーションをするための基礎的な力を養成する。基本的には、特定のテーマについてグループ単位で調査を行い、原稿及び資料を作成し、発表するという演習を行う。そしてお互いの発表に対して質疑応答を行う。プレゼンテーション技術の基礎を学び、アイコンタクトの取り方や適切な発声の仕方を練習する。	
基礎科目	英語プレゼンテーション演習Ⅱ	英語によるスピーチの練習を行い、コミュニケーションにおいて自分の意見をはっきり相手に伝えるための技術を学習する。著名人のスピーチや演説を聞き、シャドーイングを行い練習を重ねる。さらに、原稿の書き方を学び、幾つかの話題について自分で原稿を書き、発表を行う。発表内容を考えるために英語で書く、資料や原稿を読む、発音やイントネーションに留意して話す、他人の発表を聴く、といった4技能の演習を繰り返して行う。	
基礎科目	中国語コミュニケーション	中国語によるコミュニケーション能力を高めるための学修を行う。修得にあたっては、実際の日常生活やビジネスシーンを想定した「使える」中国語運用能力の向上を目指す。具体的には挨拶ができ、また挨拶に回答することができることを目指すと共に、日常会話やビジネスシーン上の最重要語を修得し、シンプルな文を聞いて理解できることを目指す。更には、コミュニケーションの楽しさを実感し、基本的な事項の確認や自分の意志を相手に伝えることのスキル修得を目指す。	
基礎科目	韓国語コミュニケーション	韓国語によるコミュニケーション能力を高めるための学修を行う。修得にあたっては、実際の日常生活やビジネスシーンを想定した「使える」韓国語運用能力の向上を目指す。具体的には挨拶ができ、また挨拶に回答することができることを目指すと共に、日常会話やビジネスシーン上の最重要語を修得し、シンプルな文を聞いて理解できることを目指す。更には、コミュニケーションの楽しさを実感し、基本的な事項の確認や自分の意志を相手に伝えることのスキル修得を目指す。	
基礎科目	ロシア語コミュニケーション	ロシア語によるコミュニケーション能力を高めるための学修を行う。修得にあたっては、実際の日常生活やビジネスシーンを想定した「使える」ロシア語運用能力の向上を目指す。具体的には挨拶ができ、また挨拶に回答することができることを目指すと共に、日常会話やビジネスシーン上の最重要語を修得し、シンプルな文を聞いて理解できることを目指す。更には、コミュニケーションの楽しさを実感し、基本的な事項の確認や自分の意志を相手に伝えることのスキル修得を目指す。	
基礎科目	情報リテラシー	大学での学習活動、卒業後の職業生活や社会生活において、情報の収集、分析や資料作成等知的活動を効率的、安全に進めるために不可欠な基本的な情報処理能力を身に付けることを目的として、コンピュータやネットワークによって構築される情報環境や、基本的ソフトウェアの仕組みと活用方法、活用に当たって守るべきルール及びマナー、潜在する脅威とそこへの対応法を、演習を交えて体得・学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	日本語コミュニケーション	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる日本語の運用能力を身に付けることを目標とする。書記言語によるコミュニケーションでは、簡潔で明快かつ論理的な文章を書くための基本的な知識・技術を学修する。同時に、そのような文章を書く際に不可欠な着想力や発想力、論理的思考力について理解する。音声言語によるコミュニケーションでは、実践的なスピーチ力・プレゼンテーション力を高め、的確な意見の述べ方や議論の進め方を学修する。	
基礎科目	現代経済学	社会的に重要な経済に関する主題や現代社会が直面する経済的な諸課題に関する知識と総合的に判断し対処する能力を養うことを目的とする。現代経済の基本的な概念と枠組みについて理解したうえで、経済問題や財政課題の多様性を認識し、経済的な見方や捉え方、考え方を身に付けるとともに、現代社会における経済構造と経済政策との関連性について理解することにより、現実の経済活動や経済現象に対する興味と関心を深める。	
基礎科目	現代産業論	戦後、日本の産業は、円高、コスト高、通商摩擦、新興国の台頭などの逆風に晒されながらも、一定の競争力を維持しており、その背景には、海外投資、経営統合、生産工程の効率化、技術革新などの弛まぬ努力があったことについて概説する。繊維、鉄鋼、自動車、電機、流通などを事例に挙げながら、これまでの環境変化や自己変革のプロセスについて学修する。さらに、今後、デジタル社会に向かうなかで、各産業がどのような展望をもっているのかについても検討する。	
基礎科目	現代企業論	企業が巨大化、グローバル化するにつれ、その影響力はますます大きなものとなっており、現代の企業は、「財とサービスの提供者」としての立場にとどまっていたは、企業価値の向上は望めないこと、経営への監視、法令の順守、環境への配慮など規律ある行動をとる必要があることを学修する。また、経営戦略の一環として、企業は統合・買収・再生などに取り組んでおり、これを支援するビジネスについても学修する。	
基礎科目	現代史と国際関係論	現在の世界の国際関係は、様々な歴史的事実や出来事が複雑に入り組みながら、成立していることについて理解する。具体的には、現状の国際関係及び、これからの国際関係を理解する上で重要となる第一次産業革命以降の産業界の歴史、第二次世界大戦後の戦争と地域紛争及び、国際連合との関わり、帝国主義と植民地政策、冷戦とその終結、ユダヤ教・イスラム教・キリスト教の成り立ち、テロと民族問題、EUの理想と課題、米中二大大国、中東とエネルギー、日中問題、日韓問題、尖閣諸島と北方領土等のテーマ別に、学修する。	
基礎科目	現代の科学技術	科学技術の成果は社会の隅々にまで浸透しており、意識するしないに関わらず、人々は生活のありとあらゆる場面でその恩恵を受けていることについて理解する。いくつかの先端的科学技術を取り上げ、その概要や社会的意義、課題を学修する。さらに、高校で学んだ物理・化学・生物・地学等の知識と関連付けながら、科学技術の実用化へ向けた探求、発見、工夫の物語を紐解くことで、科学技術への興味を深めるとともに未知の分野へも柔軟に取り組める素養を身に付ける。	
基礎科目	現代実践法学	我々の社会生活は様々な法律により支えられ方向づけられており、法律は、社会生活を律するとともに、人々が安心して生活を送ることができるようにするための規範であることについて理解する。ここでは現代社会を取り巻く法律全般について、基礎法である憲法、刑法、民法、商法の概要を中心に、経済枠組み法、業法、産業振興法、規制法等のそれぞれのカテゴリーについて概略を学修する。適宜、法律に関連する時事問題を取り上げ、現代の法律を考察する。	
基礎科目	現代社会学	現代日本において顕在化する社会問題についての理解を深めることを目的とする。日本では今後も人口減少・少子高齢化が進み、様々な分野に影響を与えると見込まれており、都市への人口集中と地方の疲弊、都市のスポンジ化（空洞化）、労働力不足、介護・福祉のミスマッチなどの深刻化の問題から、情報化、グローバル化の進展による働き方改革、ITの活用、国際交流と移民問題、地球環境問題などの発生など、現代社会が直面する問題を取りあげ、その背景と取り組むべき課題について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	国際動態論	企業現場や経済社会でリーダーとなる人材に欠かせない、高度で幅広い教養の一環として、世界規模で物事をとらえる視野と感性を身に付けさせることを目的とする。具体的には、大規模な国際交渉の展開、主要な国際機関の機能、世界経済フォーラム(ダボス会議)の役割、有力な多国籍企業の戦略、石油資源をめぐるパワーゲームなどを、実際の出来事や最新のニュースを素材とした演習・議論を通じ、自ら考えつつ学修する。	
基礎科目	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインとは、理想とする将来の自分を実現するためにどのような仕事・職業や働き方が相応しいかを考え、目標設定を行い、実現に向けて設計することであり、「キャリア」とは単なる職歴ではなく、今後の生き方や働き方という意味合いがあることについて理解する。そのうえで、人生や仕事において自分自身のなりたいた姿を描くことについて理解し、個々の夢や目標を実現するための心のあり方や目標設定の仕方、振り返り、生じた問題への対処法など、目標に対して具体的にアプローチするための実践行動に関する知識と技法について学習する。	講義7.5時間 演習7.5時間
基礎科目	キャリアデザインⅡ	他者と協調・協働して行動できる態度や他者に方向性を示し、目標を達成するために動員できる能力を養成する。集団に属しているメンバーが同じ目標を達成するために行う作業、協力、意識、行動について理解するとともに、集団や組織の場あるいは個人的な場における感情的な面も含めた人間と人間の関係について学習し、他者を理解する視点についての考察を通して、自己や自我の認識、自己と他者との関係、他者相互間の関係などの理解と人間関係の多様なあり方についての理解を深め、他者との円滑な信頼関係の構築に取り組むことができる姿勢を養う。	講義7.5時間 演習7.5時間
基礎科目	キャリアデザインⅢ	学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識を身に付け、自己の個性を理解したうえで主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度を育成する。外部講師による職業体験談を通じて、勤労観や職業観を養成するとともに、業界・業種・職種などの企業研究や企業が求める人材像、企業の仕組みなど職業理解を図る。また、自分の個性や性格を理解するための自己分析と職業選択の考え方や進め方について理解し、生涯にわたり学習の活動を続けていくことの必要性と学習の手段や方法を理解する。	講義7.5時間 演習7.5時間
基礎科目	ビジネスモラル	専門職業人としての行動規範の確立のため、企業が不祥事を起こし、大きなダメージにつながる可能性が高いビジネスモラルに着目し、実際にビジネスモラルが欠けた社員に起因した事例を考察しながら、責任ある社会人として善悪を判断する基準や考え方やモラルハザードを未然に防ぐ道徳観を涵養する。また、このビジネスモラルと共にビジネス活動上、重要な要素となるコンプライアンスの概念を正しく理解し、社会的要請に対する適応力を高めるための学修を行う。	
職業専門科目	経済学の基礎	経済学は、我々を取り巻く経済の仕組みや、様々な経済活動の仕組みを研究する学問であり、研究の対象は経済活動を行う主体だけでなく、経済活動が行われる場所も考察の対象となることについて解説する。その上で、ミクロ経済学については、市場における需要と供給を通じた個人・消費者や企業の意思決定・行動、市場が機能しない独占・寡占、情報の不完全性、外部経済・外部不経済などについて学修する。また、マクロ経済学については、国内所得(GDP)等の概念や、経済政策、経済成長、国際経済等について学修する。	
職業専門科目	経営学の基礎	経営学を形成する経済学、社会学、心理学、数学、法学等の関連する多様な分野の成果を踏まえた、経営学の基本的体系を学修する。また、企業経営とは、その方針を定め、組織を整えて、目的を達成するよう持続的に事を行うことであるが、その経営の基本的な事項といわれる、ひと、もの、金、情報の取り扱いも学修するとともに、企業経営における全体を俯瞰し、具体的に整合性を考えるなどの全体像について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	経営戦略論	事業体が経営目的を達成できるようにするための方策である経営戦略の本質と特徴及び経営実践の場面における経営戦略の実際や課題について概説したうえで、事業構造の組立てに関する全社的な戦略と個々の事業の競争力を高める事業戦略などの戦略レベルから、複数の事業分野に進出して経営資源の有効活用とリスクの分散をはかる多角化戦略、広い販売市場などを求めて他国に事業展開する国際化戦略、既存市場のすきまにある未開拓の市場へ進出するすきま戦略など、具体的な戦略について理解する。	
職業専門科目	経営組織論	経営組織とは、企業の活動をにう人的集合体であり、目標達成のために分業と協働のシステムを形成していることについて理解するとともに、組織目的を効率よく達成するために必要となる基本的な概念や理論を学修し、その仕組みづくりや変化に対応する方法を学修する。また、組織において、組織人がどのような点に留意し、どのように行動しなければならないのかを学修し、人と組織、さらに、オープン・イノベーションやサプライチェーン・マネジメントでも重要な組織間関係に関する問題解決能力とは何かを学修する。	
職業専門科目	経営戦略策定演習	事業体が経営目的を達成できるようにするための全体の活動の方向付けや方向付けられた活動を実践するための体制づくりについて概説したうえで、事業体が有する経営資源は有限であることや経営戦略に従って選択的に配分することの重要性について理解する。そのうえで、経営基盤の強化や経営改革等を図るためのより実効性のある経営戦略を策定・遂行・評価するプロセスにおける理論的フレームワークを現実に応用することについて、具体的な事例を取り上げながら、実践的な側面から学修する。	
職業専門科目	イノベーションマネジメント	イノベーションとは生産技術の変化だけでなく、新市場や新製品の開発、新資源の獲得、生産組織の改革あるいは新制度の導入なども含む概念とされていることについて理解したうえで、イノベーションの必要性の理解と、イノベーションをマネジメントする上で必要な知見の修得を旨として、オープンイノベーションを含め、企業の研究開発、技術開発及び上市・普及に関する知識やマネジメントの方法を学修する。さらに、イノベーションマネジメントに大きく影響する国・地域のイノベーションシステムやイノベーション政策について学修する。	
職業専門科目	グローバル社長学	ビジネスの海外展開、企業内での国際化はクロスボーダーで進展しており、近年、アジア新興国（インド、中国など）は急速な成長に合わせて市場・生産拠点として注目されていることについて理解する。また、経営者に求められるのは明確な事業計画と一貫した経営戦略であり、政治・文化・宗教・習慣など、異なる多様性を理解し、バランス良く組織マネジメントができる経営者の在り方について、グローバル化している企業の先進事例を取り上げながら考察するとともに、企業経営に及ぼす実体的な影響が大きいリーダーシップについて、その本質的な意味と人・組織に与える影響について学修する。	
職業専門科目	実践企業革新	企業革新とは、企業の戦略、組織、文化、人々の意識を変革することであり、企業が持続的に成長するために必要となるのは、これまでの蓄積した強みを活かすとともに、時代のニーズ・社会の変化に対応・適応し、企業革新し続けることであることについて解説する。また、企業革新の必要性を実際の事例研究を通じて理解するとともに、企業が革新するための必要項目となる企業の戦略・組織・文化・人々の意識等をどのような手法で革新するのかについて考察する。	
職業専門科目	マーケティング	マーケティングは「売れる仕組み」、「売れ続ける仕組み」を作ることであることについて解説したうえで、基本的なマーケティング用語について理解する。そのうえで、マーケティングの基本概念及び環境分析・戦略立案・施策立案の理論的フレームワークについて学修するとともに、マーケティングの代表的な戦略理論について考察する。	
職業専門科目	デジタルマーケティング	マーケティングの基本事項である製品、価格設定、販売チャネル、プロモーションについて、インターネット上の消費者行動の特性を踏まえたうえで、理論的に分析・考察し、インターネット上におけるマーケティング理論、実際のオンライン店舗の運営におけるWebマーケティング戦略立案のための各種分析方法、Webプログラミングの仕組み、HP発注交渉に必要な知識と実践力を演習を通じて学修する。さらにインターネット等の情報技術の発展がもたらす企業環境の変化に対して、企業が対応すべき事項や発展的な情報通信技術のしくみを学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	流通論の基礎	経済の基本は生産と消費であり、高度に分業化されている現代社会では、生産と消費を結びつける流通が不可欠であることについて解説する。そのうえで、流通というものの全体像を把握し、実際に起きている出来事を流通論の視点から分析できるようにすることから、生産から小売業までの消費プロセスの中で流通を捉え、商業の概念、商業構造の変化、製造業者と商業の関係について、マーケティングの理論と関連させて学修する。また、実際の小売業の事例を基に、小売業に必要な理論や課題等を考察する。	
職業専門科目	消費者行動研究	消費者行動研究とは、消費者がどのような過程で製品の購買決定を行うかを研究するものであり、消費者が製品の購買にいたる過程は非常に複雑であるとの認識から、より精密なものと認識されていることについて解説する。そのうえで、消費者が行う購買や所有とといった消費活動を行う際に、どのような要因や影響が結果を左右することになるのかを最新の行動経済学の成果を含め学修するとともに、消費者行動とマーケティングとの関係性をはじめ、消費者行動を把握することの必要性を学修する。	
職業専門科目	実践的統計学	統計学とは、ある程度以上の数のバラツキのあるデータの性質を調べたり、大きなデータ（母集団）から一部を抜き取って、その抜き取ったデータ（標本）の性質を調べることで、元の大きなデータの性質を推測したりするための方法論を体系化したものであると定義されていることについて解説する。そのうえで、ビジネスに関する国内所得や景気動向指数等の経済統計の成り立ちと見方について学修するとともに、実際に統計を作成する際に必要となる標本設計等の基礎やビッグデータ等のデータを分析する統計分析手法を学修する。	
職業専門科目	広報戦略の実践	自社・組織の経営理念を具現化するためには、戦略的な広報・コミュニケーション活動が必要であることについて理解するとともに、広報戦略の実行のためのストーリーとなる「広報戦略・経営戦略の理解」「計画立案」「実行」「評価」までの一連のプロセスを学修する。また、広報戦略は経営戦略を踏まえるため、組織全体の経営戦略体系に影響を及ぼすことについて解説したうえで、全社経営戦略への影響をも想定しつつ、組織全体としての「広報機能」をどのように策定するべきかについて学修する。	
職業専門科目	会計学	会計はビジネスの言語とも言われ、企業の取引や経営実態を理解するうえで不可欠ともいえる。ただし、会計学は企業（営利組織）を対象としたものから非営利組織を対象としたもの、あるいは制度面を重視したものから企業内部の経営管理を重視したものまで、その研究対象は多様なものである。そこで本講義は、会計学全体の概要について学習し、会計諸科目（財務諸表論、管理会計論、税務会計論、国際会計論、環境会計、公会計論、監査論、原価計算論、経営分析論、情報会計論など）の相互関連を理解することを目的とする。	
職業専門科目	財務諸表論	一般に、会計は、企業の経済活動または経済事象を貨幣数値により計算報告する技術であると定義されるが、そのうち企業の利害関係者のための外部報告会計を特に「財務会計」とよぶ。したがって、財務会計の目的は、企業の利害関係者が企業について知りたい内容を的確に知らせることである。本講義は、企業が財務諸表をはじめとする会計情報を作成するに際して準拠する会社法、金融商品取引法などの会計諸規定、さらには国際会計基準（財務報告基準）をもとに、企業活動の成果の認識、測定及び開示に関する問題点を含めて講義し、財務諸表における基本概念や数値の意味の理解をその到達目標とする。	
職業専門科目	簿記概論	簿記とは、企業規模の大小や業種、業態を問わずに、日々の経営活動を記録・計算・整理して、経営成績と財政状態を明らかにするものであることについて解説する。そのうえで、経営資源である人、もの、金、情報の活用について、どのように商品仕入れ・販売・開発活動等に関わるのかを、簿記の記帳方法の理解を通じて学修する。また、ビジネスの基本であるコスト感覚も身につくので、コストを意識した仕事ができるとともに、取引先の経営状況を把握するために経営者や管理者として、会計情報を管理する必要性や、利害関係者への提供する責任・必要性についても学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	簿記演習	簿記概論を踏まえ、問題演習を行い、基礎的な力を養成することを目的に学修する。簿記では基本論点の学習とともに演習問題を多くこなすことが重要であり、繰り返し問題演習を行うことで、会計情報の処理能力を高めるとともに、理解が深まっていくことが期待できる。授業時に行う演習方法については、主に基本的項目について講義演習・解説を実施し、その後、総合的問題やより高度な問題等の解答演習・自己採点する方法にて実施し、自立型の演習を実施することで習熟度を高めていくことを狙いとする。	
職業専門科目	財務諸表分析	財務諸表とは、企業が利害関係者に対して一定期間の経営成績や財務状態等を明らかにするために複式簿記に基づき作成される書類であり、財務諸表分析とは、財務諸表数値の実数分析と比率分析等により、定量的な数値を用いて収益性・安全性・成長性および資産・資本の効率を評価することであることについて理解する。そのうえで、簿記概論を発展させる形で、財務諸表の基礎知識及び財務会計の理論を学修し、さらに財務諸表の分析により、どのような観点が企業の戦略・意思決定に関連し、企業の発展につながるのかという仕組みと理論を学修する。	
職業専門科目	資金調達の実践	新たな事業の開始時、投資時における資金調達に関する知識を修得することを目的として、現在の金融ファイナンスを理解するとともに、最新のマネジメント理論・事例を学修し、様々な現場にて活用可能な資金調達の手法を学修することで、適正な経営を行うマインドと実践力を養成する。また、企業の資金需要や資金調達の形態についての概略と借入れの種類と返済方法や借入金利とメインバンク制について学修する。	
職業専門科目	実践日本ビジネス法	ビジネスの場面で必須となる商法の全体についての体系的理解と、商法分野の商法総則を中心とした主要な領域について、基本的な知識の理解に向けた学修を行うとともに、会社法の意義・概観、会社の種類、各会社に共通する基本的事項・概念を学修する。また、株式会社の設立・機関、利害関係者とその調整についての学びや、具体的な事例の考察を通じて、会社や企業社会における会社法の関わりを学修する。さらに、現在、ビジネスにおいて重要性を増している知的財産法について学修する。	
職業専門科目	不動産法入門	活力あるビジネスを実現するための重要な要素となる不動産取引について、その不動産取引の実践上で必要な法律の知識を修得するとともに、初歩的な法令の調べ方、司法制度などを学修する。併せて、不動産を知る上で重要な法の概念を学修することにより、その後法律系専門科目を理解する上での初歩的知識の修得を目指す。具体的な目標として、法律学習の入門としての知識を学修するとともに、不動産法の種類や構成、その内容や問題点の把握を通じて不動産法の全体像の理解を目指す。	
職業専門科目	不動産取引演習	「不動産法入門」の履修生を対象に、不動産取引を行うための基礎知識と実践力を養成する。具体的には、宅地建物取引業法、土地および建物についての権利及び権利の変動に関する法令（民法、借地借家法、区分所有法、不動産登記法等）、土地及び建物についての法令上の制限（都市計画法、建築基準法等）、宅地及び建物についての税に関する法令、宅地及び建物の価格の評定等について具体的な事例を基にした演習を通じ学修する。	
職業専門科目	企業リスク管理実践	取引先の倒産等の売り上げや利益が減少するリスク、ステークホルダーからの訴訟等による賠償責任のリスク、経営者、従業員の死亡・事故・信用損失などの人的リスク、新製品開発や海外進出などの営業戦略上のビジネスリスク等、企業活動においてリスク管理しなければならない事項を様々な場面ごとの事例研究を通じて考察する。また、リスクに対する具体的な対処策について、演習を通じて学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	アントレプレナーシップ論	新規事業開発者(起業家、社内起業家、ベンチャー企業の経営者)を対象に、アントレプレナーシップを学修する。事例研究や技法解説を通じて、起業前後に遭遇するであろう諸問題の理解と、対処法の指針や方法を修得する。また、この講義では、起業家として必要な倫理観を身につけるため、企業と社会との関係がどうあるべきかについて、企業とその資金提供者、企業とその全ての利害関係者、企業と国及び地方公共団体との関係の在り方から考察する。 オムニバス方式/全15回) 2 近藤 正幸/9回) アントレプレナーシップについて、事例研究や技法解説を通じて、起業前後に遭遇するであろう諸問題の理解と、対処法の指針や方法を修得する。 19 渡辺 芳久/6回) 企業とその資金提供者、企業とその全ての利害関係者、企業と国及び地方公共団体との関係の在り方から考察する。	オムニバス方式
職業専門科目	実践ベンチャービジネス	1年次に履修したアントレプレナーシップ論を基礎に、ベンチャービジネスを立ち上げ、成功させるためには、起業家(アントレプレナー)は、どのように企業経営を実践すべきかを取り扱う。アントレプレナーが一人で、或いは数名で開始した当初から、10名、数十名、100名、数百名の規模に発展させるために、企業規模、企業ステージごとの経営の変化の在り方(企業形態と経営)を考察し、これらを踏まえて起業家にとって重要となるベンチャー・ビジネスの基礎的事項・知識について学修する。様々な起業の事例研究・考察を通じて、実践的なベンチャー企業の立ち上げ及び経営手法、新事業成功の戦略や立ち上げの成功のために必要となる手法を修得する。	
職業専門科目	I C T活用ビジネス	I C T技術の目覚ましい進歩があらゆる産業、企業に大きな構造変化をもたらす中、それを活用した独自のビジネスモデルを構築した企業の多くは高収益を実現していることについて解説する。そのうえで、今後ますますの拡大が予想されるI C T技術の活用によるビジネスの可能性を考察すると共に、ビジネス化可能な産業、ビジネス化するための視点、ビジネス化までのプロセス・手法等の概略を学修する。	
職業専門科目	トップランナー研究	本科目は産業界において先進の取り組みを実践している事例についての考察・研究を通じ、専門職業人としての心構え、考え方、行動指針等を理解し、自己の職業観確立のための一助とすると共に、思考力、判断力、実践力の向上を目指す。具体的な授業の進め方としては、先進的な取り組み事例を題材に取り上げ、考察や課題の抽出を行ったうえで、学生同士によるグループ討議や担当教員との討論や議論を行うとともに、指定されたテーマの考察による報告書の作成を通して、専門職業人としての職業観を醸成する。	集中
職業専門科目	ビジネスモデル研究	現在、日本企業は「成長の伸びしろの縮小」と「収益モデルの陳腐化」という構造的な問題に対し、どのような打ち手を講じるのかということが本質的な命題となっていることについて解説する。そのうえで、バリューチェーンの立ち位置や顧客接点に着目し、起業家・後継者・社内ベンチャーや、グローバル化の成功事例を考察するとともに、起業の成功のための核となる様々なビジネスモデルを取り上げ、具体的な事例・ケーススタディの演習を通じて、経営知識・理論の修得に向けた学修をする。	
職業専門科目	ビジネスコミュニケーション	広報・営業活動、情報のやり取りを担当する組織、顧客満足に関する調査を推進するための部門等の外部とのコミュニケーションの在り方、企業内における異なる部門間の内部コミュニケーションといった企業・組織活動における根幹となるビジネスコミュニケーションの理論と手法について、事例研究や考察を通じて学修し、企業・組織における人間関係の基本的事項であるビジネスコミュニケーションの実践力とは何かを学修する。	
職業専門科目	コミュニケーションデザイン	企業が顧客や社会とつながり調和していく上で重要となるコミュニケーションについて、その効果性・効率性を上げるための設計方針や実践のための手法を情報通信技術の活用の仕方を含め学修する。また、様々な状況から生じる考え方の違いなど、立場が違う人同士の適切なコミュニケーション手法や、その具体的な設計および実践するために必要なコミュニケーション回路、構想を学修し、経営に必要なコミュニケーションデザインのビジネスモデルを学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	ビジネスプランの基礎	ビジネスプランが新しい事業の成功確率を高めてくれる最大の武器になること、また、ビジネスプランを作成することは、自分の進める事業の理解を深めることになり、社内外の関係者の理解と協力を集める上での強力なツールにもなることについて理解するとともに、事業化するために必要となる事業分野の選定やビジネスモデルの構築、ビジネスプランの作成およびプレゼンテーションに関する基本的な知識について学修する。	
職業専門科目	ビジネスプランの応用	ビジネスプランの基礎を踏まえて、技術・製品・サービスに関するアイデア、新しいビジネスに挑戦するための方法、手段、手順等、事業コンセプト、事業環境の分析、マーケティング方法など、経営者・起業家として必要となる基本的スキルや発想法とビジネスプランをより具体的なアイデアに発展させる事業計画策定の方法について、学生の興味・関心によりグループ分けしたチーム毎に、グループワーク、リサーチ、レポート、プレゼンテーション等を用いた実習を通じて学修する。	
職業専門科目	会社設立実習Ⅰ	経営資源である、ヒト、モノ、カネ、情報を動かし、管理し、各組織が連携して機能しないと会社として成り立たないことについて理解するとともに、学生同士や担当教員とのディスカッションを繰り返しながら、実際にビジネスプランを策定し、模擬会社を設立することを通して、事業計画、資金計画、経営(仮想)、決算、税務申告までの一連の流れについて学修する。	
職業専門科目	会社設立実習Ⅱ	会社設立実習Ⅰで学修した事業計画、資金計画、経営(仮想)、決算、税務申告までの一連の流れの理解を踏まえ、学外での実際の会社設立を想定した具体的な計画を策定する。具体的には、学部全体で企業参加メンバーやスタッフを募って起業チームを形成し、会社運営上の経営資源の過不足の検証や補完、調達計画を策定する。また、模擬会社を実際の会社にした際の課題の抽出から、運営計画、設立起案書、株主総会資料等を作成する。	
職業専門科目	会社設立実習Ⅲ	事業計画、資金計画、経営(仮想)、決算、税務申告までの一連の流れを学修した会社設立実習Ⅰ及び、学外での実際の会社設立を想定し、具体的な計画を策定した会社設立実習Ⅱの学習内容を踏まえ、会社設立実習Ⅱで策定した計画内容に基づき、実際に会社設立に必要な計画策定から実行までを実践的に学修する。	
職業専門科目	実践事業承継	事業承継を成功させるためには、ヒト＝経営権、モノ＝財産権(自社株)、カネ＝移転コストをバランス良く睨んだうえで、十分な対策の検討、並びに計画的に実行していくことを認識することが重要であることについて解説する。そのうえで、中小企業における後継者不足によるM&Aの加速の実態を踏まえ、実際の事業承継の現場で活用できる事業承継計画の策定及び課題企業に対する総合的な提案について考察する。	
職業専門科目	事業承継演習	事業承継における人材の確保及び育成、事業資金やノウハウ等、事業経営に必要な経営資源及び承継後の事業拡大を見据えた伝統の承継とイノベーションの双方を含む事業計画の策定方法についての理解を深めるとともに、承継後の企業経営のパートナーである銀行の業務内容及び融資業務のプロセス、事業承継の進め方等について、実務的な側面から学修する。 オムニバス方式／全15回) (35 武田 超／9回) 事業承継についての事例研究及び演習を課題として、方針の検討から計画の立案、調査、検討、実行までの一連の流れについて学修する。 (37 久保田 剛一／6回) 事業承継についての計画の立案、検討、実行について総合的に演習にて学修する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	企業内実習Ⅰ	ビジネス現場における他者との相互理解や円滑に仕事を進めるうえで信頼関係を築くことの重要性について、実際の企業現場で業務を体験することで理解し、企業活動における報告・連絡・相談の必要性や社会人としての身だしなみ・マナーについてもその能力と態度を身に付ける。実習先企業の事業内容が地域社会に果たす役割や企業人としての責任の自覚や他者と協調・協働して行動することの大切さを理解し、企業活動について考察する態度を身に付ける。	
職業専門科目	企業内実習Ⅱ	実習先企業の市場における企業価値や業界でのポジショニングを認識し、企業経営者のリーダーシップ、経営目標の設定や行動計画の策定、経営判断の考え方、経営課題への取り組み方などを実際の業務や経営管理者とのミーティングを通して考察することにより、経営課題を踏まえた目標設定や行動計画を策定し、実習先企業へのプレゼンテーションを体験することで、地域産業の振興や活性化を推進するための創造的な能力と実践的な態度を身に付けるとともに経営者マインドを醸成する。	
職業専門科目	企業内実習Ⅲ	実習先企業の事業内容、社会的役割を理解し、業務現場の見学やヒアリング、実際の業務体験を通して自社の事業状況、自社の強みや弱みを把握し、業界事情の分析、市場の分析、競合他社の分析、社会環境の分析を踏まえて、実習先企業の抱える課題を認識し、課題の解決のための方策を考察する。この際、課題抽出のため、ここまでに学んだ経営戦略や経営組織の理解、トップマネジメントの理解、会計・財務に関する理論を総合的に活用し、課題解決策を企画提案書としてまとめ、実習先企業へのプレゼンテーションを体験することで、地域産業の振興や活性化を推進するための創造的な能力と実践的な態度を身に付ける。	
職業専門科目	新規商品開発・販売実習Ⅰ	実習先企業の商品やサービスの販売体験を行い、そこから見えてくる課題を抽出し、自社の商品やサービスについて、新しいマーケットやターゲットを選定するための手法、そのターゲットに対するアプローチの手法、その成果を分析する手法等の新規商品開発及び販売計画の策定について、実際の企業現場で企画部署や経営管理者とのミーティングにより考察を重ね、グループワークにて他者と協働し新規企画を立案し、実習先企業へのプレゼンテーションを体験することで、新たなモノやサービスを創り出す創造力と実践的な態度を身に付ける。	
職業専門科目	新規商品開発・販売実習Ⅱ	実習先企業の商品やサービスの販売体験やニーズヒアリングを行い、様々な調査や分析を行い、新商品や新サービスの開発を提案する。さらに、ここまでに身に付けた経営、会計、マーケティングの知識を総合し、実際の販売ベースに乗せる商品化されるまでの販売計画を立案し、実習先企業へのプレゼンテーションを体験することで、新たな事業の創造と発展を担うための実践的かつ応用的な能力を身に付ける。	
職業専門科目	地域経済産業論	地域経済は、地域の視点から見た日本経済論である。地域経済は、経済的には地域内の資源をベースとした経済循環が機能し、他地域、域外との交流、交易を軸に成り立っている。産業面では経済発展に即した産業構造の形成、さらに企業視点では、地域企業、全国企業、グローバル企業の立地がオーバーラップし、そのための社会インフラ整備による環境整備が重視される。本講義の後半では、特に地域経済の発展を左右する、地域中小企業の活性化状況、そのための中小企業振興施策について、ケーススタディを元に考察していく。 オムニバス方式／全15回) (4 徳田 賢二／9回) 地域の視点から見た日本経済を経済面、産業面、さらに企業視点から考察する。 (19 渡辺 芳久／6回) 地域中小企業の活性化状況、そのための中小企業振興施策について、ケーススタディを元に考察していく。	オムニバス方式
職業専門科目	地域産業研究Ⅰ(農林水産)	農林水産業に関する知識を習得させ、農林水産業の現状と課題について理解させるとともに、農林水産分野における新たな事業を創造するための能力と態度を育てる。我が国の第一次産業における新たなビジネスの展開の現状について、農林水産業においてビジネスの機会をとらえて成長した具体的な事例を通して理解したうえで、新潟県の農林水産業の動向や新たなビジネスに役立つ資源について考察を行い、農林水産業の振興のためのアイデアの考案や方策について考える。	

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	地域産業研究Ⅱ(医療福祉)	児童及び家庭や高齢者・障害者を支える医療福祉サービスについて、関係する法規や制度と関連付けて理解するとともに、新潟県における医療福祉サービスの概要と現状について理解し、その課題について考える。また、介護実践に関連する諸制度を取り上げ、新潟県における医療福祉施策と関連付けて目的や役割とその基本的な仕組みについて理解するとともに、新潟県の医療福祉分野における新たなサービスの考案や方策について考える。	
職業専門科目	地域産業研究Ⅲ(環境)	環境・エネルギーに関する知識を習得させ、エネルギー産業の現状と課題について理解させるとともに、再生可能エネルギー分野における新たな事業を創造するための能力と態度を育てる。再生可能エネルギーの活用促進に関する具体的な事例の考察を通して、将来のエネルギー選択の幅の拡大について理解するとともに、新潟県の多様な地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入や当該分野への参入のためのアイデアの考案や方策について考える。	
職業専門科目	地域産業研究Ⅳ(ものづくり)	ものづくりに関する知識を習得し、顧客満足を実現することの重要性について理解するとともに、消費者の視点に立った商品開発や流通活動を行う能力と態度を育てる。新潟県におけるものづくりの具体的な事例を取り上げ、ケーススタディを通して、その特徴などについて理解するとともに、近年のものづくり産業を取り巻く環境の変化やその分析を通して、新潟県におけるものづくり産業の振興のためのアイデアの考案や方策について考える。	
職業専門科目	地域産業研究Ⅴ(観光)	観光ビジネスに関する知識を習得させ、観光産業の現状と課題について理解させるとともに、観光分野における新たな事業を創造するための能力と態度を育てる。観光産業の動向や課題について理解したうえで、観光ビジネスに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、観光ビジネスについての理解を深めるとともに、新潟県における観光資源の効果的な活用や国内旅行と訪日観光の振興策の考案や方策について考える。	
職業専門科目	地域産業研究Ⅵ(ICT)	情報通信産業に関する知識を習得させ、情報通信産業の現状と課題について理解させるとともに、情報通信分野における新たな事業を創造するための能力と態度を育てる。近年、めざましい進歩を遂げた情報通信技術を活用した新たなビジネスの展開の現状について、情報通信産業においてビジネスの機会をとらえて成長した具体的な事例を通して理解したうえで、新潟県における情報通信産業の振興のためのアイデアの考案や方策について考える。	
職業専門科目	地域産業研究Ⅶ(まちづくり)	まちづくりの概念や意義とまちづくりにおける国や地方公共団体が担う役割、地域の魅力を高めるためのまちづくりの在り方や最新の動向について概説したうえで、新潟県におけるまちづくりの動向や現状と課題について、まちづくりに関する具体的な事例の考察を通して理解する。また、まちづくりに役立つ資源についての調査や分析を行い、社会資本の整備を通じた快適で魅力あるまちづくりのためのアイデアの考案や方策について考える。	
職業専門科目	地域産業研究Ⅷ(カルチャー・エンタテインメント)	カルチャー・エンタテインメントビジネスに関する知識を習得させ、カルチャー・エンタテインメントビジネス分野における新たな事業を創造するための能力と態度を育てる。カルチャー・エンタテインメントビジネスの動向や課題について理解したうえで、カルチャー・エンタテインメントビジネスに関する具体的な事例の分析や考察を通して理解を深めるとともに、新潟県におけるカルチャー・エンタテインメントビジネスの振興のためのアイデアの考案や方策について考える。	
展開科目	デザイン・シンキング概論	デザインに必要な考え方や手法等を駆使して課題解決手法や新しい商品・サービスを生み出す手法であるデザイン・シンキングの考え方を学修する。また、この考え方が考案された経緯など、基礎から他の解決手法を比較し学修する。この前提の理解を踏まえ、問題意識を持って自ら課題を発見し、その課題を解決するための手法やプロセス、チームでの課題解決に必要なチームワークやコミュニケーション力、ディベート力の必要性について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	ソーシャルデザインⅠ	既修の課題解決手法のひとつであるデザイン・シンキング概論に関連する学修として、地方の課題を解決し、より魅力的な地域振興・地域活性化につなげていくためのプロセスについて、具体的な事例を基に考察し、基本的な着眼点や企画・構成等、どのように体系化されているのかについて学修する。また、今後、地域振興・地域活性化に向けた取り組みにおいて、課題となる社会問題に対する着眼点・解決プロセス等を理論的かつ実践的に理解する。	講義 2 1 時間 演習 9 時間
展開科目	ソーシャルデザインⅡ	ソーシャルデザインⅠの発展的な学修として、地域振興・地域活性化に向けた行政側の地域政策・計画を理解したうえで、ソーシャルデザインとしての行政と民間（住民、NPO、民間企業等）が連携して課題解決に取り組んだ事例を中心に、事業スキームと検討プロセスを学修する。また、これらの事例を通じ、地域政策の概念と意義や地域政策における政府や地方公共団体が担う役割の理解を踏まえ、地域の魅力を高めるための行政と民間の在り方や最新の動向について学修する。これらを踏まえ、次の学修となるソーシャルデザイン実習につながるよう、創造的な課題解決策とその事業化の進め方を理解する。	講義 2 3 時間 演習 7 時間
展開科目	ソーシャルデザイン実習	既修の課題解決手法のひとつであるデザイン・シンキング概論及びソーシャルデザインⅠ・Ⅱの理論を基に、地域社会が抱える実際のフィールドにあてはめて、課題解決のためのプラン策定実習を実施する。なお、実習の進め方としてはグループワーク、フィールドサーベイ、グループ討議、グループ発表を中心に進め、検討されたプランの中で教員・学生より高く支持された優秀なプランは、対象フィールドの団体、自治体等へのプレゼンテーションを実施する。	
展開科目	新潟と地域社会	新潟県内各地域の地理や歴史、文化、産業などの基本的な事項についての知識・情報を理解するとともに、地域の現状と課題についてグループワークを行うことで新潟という地域社会に関する理解を深める。基本的には新潟の地を題材に、授業を進めると共に、近県他地域の題材等も取り上げ、新潟の地域社会と比較考察することで、地域社会への理解を深める。なお、この科目は3年次に履修するソーシャルデザイン実習において、新潟の地域事情を踏まえた課題解決プランを策定するために必要となる知識・情報を教授するための授業となる。	
展開科目	新潟と地域政策	本講義では、新潟の地における各地方自治体の地域政策が、どのように住民の生活に関わっているのかについて、特に地域資源の効果的な活用、住民参画、地方自治体の行財政改革を重点的に取り上げ、今後の新潟の活性化に必要な方策を講義する。また、国レベルでの国土計画、都市計画、農村計画等から落とし込まれる地方自治体での地域政策との関係性やその課題に対して、よりよい地域政策を模索し、地域の活性化を図るための解決策の在り方を考察する。	
展開科目	新潟と地域資源	地域資源は、自然環境のほか、地域に暮らす人々が歴史的に築き上げてきた社会・産業・文化・教育などの人文的な環境、自然を利用する過程で人々が養った知恵など様々なものがあることを踏まえ、新潟の活性化に向けては、これらの地域資源の特性となる持続性と経済性、文化性、環境への配慮などを踏まえた活用の方策・計画が求められていることへの理解を深めたうえで、新潟の地域資源についての基礎的な知識やその特性の理解と共に、その活用の可能性を考察する。	講義 1 5 時間 演習 1 5 時間
展開科目	地域資源活用の理論と方法	地域資源に関わる様々なアイデアやシーズを有効利用するためには、地域資源を効果的に活用するための理論とその手法の理解が重要となることを踏まえて、地域がその資源を活用して全国に発信できるものを打ち出し、域外から資金を獲得できるようにしていくことで、地域活性化に繋げることの意義を理解すると共に、その地域活性化に向けた事業を推進するためのノウハウを修得する。	
展開科目	地域資源活用の事例研究	現在、地域においては、地方活性化に向けた様々な少子高齢化、グローバル化等の課題が山積する一方、改めて地域資源活用に注目し、その取り組みを強化することで地方活性化の可能性を高めることができることを踏まえ、地域資源をどのように見だし、活用すべきか、様々な地域における地域資源活用の事例研究や、その考察を通じて、地域資源活用の重要性の理解と地域資源活用の理論と方法を修得する。	講義 1 5 時間 演習 1 5 時間

授 業 科 目 の 概 要			
(事業創造学部事業創造学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	地域資源活用実習	地域に貢献できる人材の持つべき素養として、地域の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々、そして地域が抱える課題に自ら繋げていく事が求められることを踏まえ、自らの生きる地域社会について、産学中心に学びつつ、グループ単位のフィールドワーク等を通じて、地域資源の発見とその活用方法を考察する。本講義は、地域資源に関する知識やフィールドワーク手法の修得だけでなく、地域社会の将来に対する使命感を滋養する。	
総合科目	事業計画策定総合実習	新規事業開発の専門職業人として、実践的かつ応用的な能力を総合的に高めるために、職業専門科目を中心に身に付けた知識・技能を統合した解決力・創造力を身に付けるための総合的な実習を実施する。具体的には、事業開発についての調査や分析を行い、その結果を基に、地域産業の振興のための具体的な事業計画の考案から実現方策の立案までを実践的に学修する。また、指導教員との議論や学生同士の討議、共同作業等を通して、コミュニケーション能力やディベート力、プレゼンテーション能力の向上を図る。	共同

授業科目の概要			
(情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	大学英語の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、短めのダイアログ等を題材として、リスニングの入門および基礎固めを行うとともに、文単位の理解を確認・徹底することにより、リーディングにつながる基礎力も固める。それらの活動を通して最低限の短い日常会話、表現のスピーキングをマスターし、同時に簡潔な基本的英文の読解・理解力、簡潔な基本的英文のライティング力を身に付ける。なお、授業の一部においては、アクティブラーニングの形式を取り入れた英会話の授業を実施する。	
基礎科目	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅠの英語力をさらに向上させるため、自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進めながら、発展的なリスニング活動も並行して行なう。その際、ディクテーションを取り入れて、アクティブ・ボキャブラリーを増やすことで、英語作文能力・英語プレゼンテーション力向上のための総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。授業の一部においては、アクティブラーニングの形式を取り入れた英会話の授業を実施する。	
基礎科目	英語プレゼンテーション演習Ⅰ	本科目では、英語によるプレゼンテーションの準備から実施までを学ぶ。複数の人を対象に、特定の目的と内容を持って英語でプレゼンテーションをするための基礎的な力を養成する。基本的には、特定のテーマについてグループ単位で調査を行い、原稿及び資料を作成し、発表するという演習を行う。そしてお互いの発表に対して質疑応答を行う。プレゼンテーション技術の基礎を学び、アイコンタクトの取り方や適切な発声の仕方を練習する。	
基礎科目	英語プレゼンテーション演習Ⅱ	英語によるスピーチの練習を行い、コミュニケーションにおいて自分の意見をはっきり相手に伝えるための技術を学習する。著名人のスピーチや演説を聞き、シャドーイングを行い練習を重ねる。さらに、原稿の書き方を学び、幾つかの話題について自分で原稿を書き、発表を行う。発表内容を考えるために英語で書く、資料や原稿を読む、発音やイントネーションに留意して話す、他人の発表を聴く、といった4技能の演習を繰り返して行う。	
基礎科目	中国語コミュニケーション	中国語によるコミュニケーション能力を高めるための学修を行う。修得にあたっては、実際の日常生活やビジネスシーンを想定した「使える」中国語運用能力の向上を目指す。具体的には挨拶ができ、また挨拶に応答することができることを目指すと共に、日常会話やビジネスシーン上の最重要語を修得し、シンプルな文を聞いて理解できることを目指す。更には、コミュニケーションの楽しさを実感し、基本的な事項の確認や自分の意志を相手に伝えることのス��修得を目指す。	
基礎科目	韓国語コミュニケーション	韓国語によるコミュニケーション能力を高めるための学修を行う。修得にあたっては、実際の日常生活やビジネスシーンを想定した「使える」韓国語運用能力の向上を目指す。具体的には挨拶ができ、また挨拶に応答することができることを目指すと共に、日常会話やビジネスシーン上の最重要語を修得し、シンプルな文を聞いて理解できることを目指す。更には、コミュニケーションの楽しさを実感し、基本的な事項の確認や自分の意志を相手に伝えることのス��修得を目指す。	
基礎科目	ロシア語コミュニケーション	ロシア語によるコミュニケーション能力を高めるための学修を行う。修得にあたっては、実際の日常生活やビジネスシーンを想定した「使える」ロシア語運用能力の向上を目指す。具体的には挨拶ができ、また挨拶に応答することができることを目指すと共に、日常会話やビジネスシーン上の最重要語を修得し、シンプルな文を聞いて理解できることを目指す。更には、コミュニケーションの楽しさを実感し、基本的な事項の確認や自分の意志を相手に伝えることのス��修得を目指す。	

授業科目の概要 (情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	情報リテラシー	大学での学習活動、卒業後の職業生活や社会生活において、情報の収集、分析や資料作成等知的活動を効率的、安全に進めるために不可欠な基本的な情報処理能力を身に付けることを目的として、コンピュータやネットワークによって構築される情報環境や、基本的ソフトウェアの仕組みと活用方法、活用に当たって守るべきルール及びマナー、潜在する脅威とそこへの対応法を、演習を交えて体得・学修する。	
基礎科目	日本語コミュニケーション	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる日本語の運用能力を身に付けることを目標とする。書記言語によるコミュニケーションでは、簡潔で明快かつ論理的な文章を書くための基本的な知識・技術を学修する。同時に、そのような文章を書く際に不可欠な着想力や発想力、論理的思考力について理解する。音声言語によるコミュニケーションでは、実践的なスピーチ力・プレゼンテーション力を高め、的確な意見の述べ方や議論の進め方を学修する。	
基礎科目	現代経済学	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければならないが、また財とサービスを購入するための貨幣が必要であり、経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であることについて理解を深める。具体的には、現在の経済を理解するため、経済体制の主な特徴である資本主義と社会主義を中心に、開発途上国の経済等も取り上げながら、現代の経済学について学修する。	
基礎科目	現代産業論	戦後、日本の産業は、円高、コスト高、通商摩擦、新興国の台頭などの逆風に晒されながらも、一定の競争力を維持しており、その背景には、海外投資、経営統合、生産工程の効率化、技術革新などの弛まぬ努力があったことについて概説する。繊維、鉄鋼、自動車、電機、流通などを事例に挙げながら、これまでの環境変化や自己変革のプロセスについて学修する。さらに、今後、デジタル社会に向かうなかで、各産業がどのような展望をもっているのかについても検討する。	
基礎科目	現代企業論	企業が巨大化、グローバル化するにつれ、その影響力はますます大きなものとなっており、現代の企業は、「財とサービスの提供者」としての立場にとどまっていたは、企業価値の向上は望めないこと、経営への監視、法令の順守、環境への配慮など規律ある行動をとる必要があることを学修する。また、経営戦略の一環として、企業は統合・買収・再生などに取り組んでおり、これを支援するビジネスについても学修する。	
基礎科目	現代史と国際関係論	現在の世界の国際関係は、様々な歴史的事実や出来事が複雑に入り組みながら、成立していることについて理解する。具体的には、現状の国際関係及び、これからの国際関係を理解する上で重要となる第一次産業革命以降の産業界の歴史、第二次世界大戦後の戦争と地域紛争及び、国際連合との関わり、帝国主義と植民地政策、冷戦とその終結、ユダヤ教・イスラム教・キリスト教の成り立ち、テロと民族問題、EUの理想と課題、米中二大大国、中東とエネルギー、日中問題、日韓問題、尖閣諸島と北方領土等のテーマ別に、学修する。	
基礎科目	現代の科学技術	科学技術の成果は社会の隅々にまで浸透しており、意識するしないに関わらず、人々は生活のありとあらゆる場面でその恩恵を受けていることについて理解する。いくつかの先端的科学技術を取り上げ、その概要や社会的意義、課題を学修する。さらに、高校で学んだ物理・化学・生物・地学等の知識と関連付けながら、科学技術の実用化へ向けた探求、発見、工夫の物語を紐解くことで、科学技術への興味を深めるとともに未知の分野へも柔軟に取り組める素養を身に付ける。	

授業科目の概要			
(情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	現代実践法学	我々の社会生活は様々な法律により支えられ方向づけられており、法律は、社会生活を律するとともに、人々が安心して生活を送ることができるようにするための規範であることについて理解する。ここでは現代社会を取り巻く法律全般について、基礎法である憲法、刑法、民法、商法の概要を中心に、経済枠組み法、業法、産業振興法、規制法等のそれぞれのカテゴリーについて概略を学修する。適宜、法律に関連する時事問題を取り上げ、現代の法律を考察する。	
基礎科目	現代社会学	現代日本において顕在化する社会問題についての理解を深めることを目的とする。日本では今後も人口減少・少子高齢化が進み、様々な分野に影響を与えると見込まれており、都市への人口集中と地方の疲弊、都市のスポンジ化(空洞化)、労働力不足、介護・福祉のミスマッチなどの深刻化の問題から、情報化、グローバル化の進展による働き方改革、ITの活用、国際交流と移民問題、地球環境問題などの発生など、現代社会が直面する問題を取りあげ、その背景と取り組むべき課題について学修する。	
基礎科目	国際動態論	企業現場や経済社会でリーダーとなる人材に欠かせない、高度で幅広い教養の一環として、世界規模で物事をとらえる視野と感性を身に付けさせることを目的とする。具体的には、大規模な国際交渉の展開、主要な国際機関の機能、世界経済フォーラム(ダボス会議)の役割、有力な多国籍企業の戦略、石油資源をめぐるパワーゲームなどを、実際の出来事や最新のニュースを素材とした演習・議論を通じ、自ら考えつつ学修する。	
基礎科目	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインとは、理想とする将来の自分を実現するためにどのような仕事・職業や働き方が相応しいかを考え、目標設定を行い、実現に向けて設計することであり、「キャリア」とは単なる職歴ではなく、今後の生き方や働き方という意味合いがあることについて理解する。そのうえで、人生や仕事において自分自身になりたい姿を描くことについて理解し、個々の夢や目標を実現するための心のあり方や目標設定の仕方、振り返り、生じた問題への対処法など、目標に対して具体的にアプローチするための実践行動に関する知識と技法について学習する。	講義7.5時間 演習7.5時間
基礎科目	キャリアデザインⅡ	他者と協調・協働して行動できる態度や他者に方向性を示し、目標を達成するために動員できる能力を養成する。集団に属しているメンバーが同じ目標を達成するために行う作業、協力、意識、行動について理解するとともに、集団や組織の場あるいは個人的な場における感情的な面も含めた人間と人間の関係について学習し、他者を理解する視点についての考察を通して、自己や自我の認識、自己と他者との関係、他者相互間の関係などの理解と人間関係の多様なあり方についての理解を深め、他者との円滑な信頼関係の構築に取り組むことができる姿勢を養う。	講義7.5時間 演習7.5時間
基礎科目	キャリアデザインⅢ	学生が将来への目的意識を明確に持つよう、職業観を涵養し、職業に関する知識を身に付け、自己の個性を理解したうえで主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度を育成する。外部講師による職業体験談を通じて、勤労観や職業観を養成するとともに、業界・業種・職種などの企業研究や企業が求める人材像、企業の仕組みなど職業理解を図る。また、自分の個性や性格を理解するための自己分析と職業選択の考え方や進め方について理解し、生涯にわたり学習の活動を続けていくことの必要性と学習の手段や方法を理解する。	講義7.5時間 演習7.5時間
基礎科目	ビジネスモラル	専門職業人としての行動規範の確立のため、企業が不祥事を起こし、大きなダメージにつながる可能性が高いビジネスモラルに着目し、実際にビジネスモラルが欠けた社員に起因した事例を考察しながら、責任ある社会人として善悪を判断する基準や考え方やモラルハザードを未然に防ぐ道徳観を涵養する。また、このビジネスモラルと共にビジネス活動上、重要な要素となるコンプライアンスの概念を正しく理解し、社会的要請に対する適応力を高めるための学修を行う。	

授業科目の概要			
(情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	情報の基礎	情報学部では、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求し、社会に役立てられるようになることを目指す。これらを学修するにあたっての導入として、「物質」、「エネルギー」に並ぶ第三の概念である「情報」について、まずその本質を理解し、さらに人間社会とのかかわり、意義、課題について理解するとともに、情報に係る、これから学ぶべき学問分野を俯瞰する。	
職業専門科目	トップランナー研究	本科目は産業界において先進の取り組みを実践している事例についての考察・研究を通じ、専門職業人としての心構え、考え方、行動指針等を理解し、自己の職業観確立のための一助とすると共に、思考力、判断力、実践力の向上を目指す。具体的な授業の進め方としては、先進的な取り組み事例を題材に取り上げ、考察や課題の抽出を行ったうえで、学生同士によるグループ討議や担当教員との討論や議論を行うとともに、指定されたテーマの考察による報告書の作成を通して、専門職業人としての職業観を醸成する。	集中
職業専門科目	情報と法律	ICT技術を実社会で活用する際にコンプライアンスに沿うことが必要になることを踏まえて、著作権、個人情報保護等の法律はもとより、法律に付随するガイドラインなどの内容と必要性・重要性を理解する。具体的には、情報財(著作権・特許権等)関係、ネット取引、個人情報保護、情報セキュリティ、電子マネー、ファイナンス・テクノロジー、ネットショップ、オンラインゲーム、電子書籍、サイバー犯罪、スマートフォンと子どもとネット、人工知能など、法律問題の事例を通じて学修する。	
職業専門科目	情報と経営	ICTを利用した情報システムを、経営にいかに関活用していくか、企業の経営に必要な情報とはなにか、それはどこにあるのか、それらをどのように活用し、企業の発展にどう結びつけるのか、という発想を基として、企業の内外に存在する様々なデータに基づいて判断・行動するデータ駆動型経営を理解し、実行するために必要となる知識と技術について、インターネット業界の企業経営をケーススタディとして取り上げ、経営に反映させる方法を修得する。	
職業専門科目	情報と倫理	本科目では、コンピュータ技術者がその職務を遂行する上で、必要な倫理について考察する。コンピュータ技術者が直面する可能性のある種々の倫理的問題を、具体的な事例を通して、それらの問題を分析し、倫理的に推論する方法について学ぶことで、サイバーネットワーク社会における倫理的諸問題に対処するための社会的含意と社会的価値などについて理解する。	
職業専門科目	情報と英語	ICT業界では、最新の製品やテクノロジーの多くは米国などの海外から由来することが多く、最新製品のロードマップや各種ドキュメント類は、まず英語でリリースされることが大半であり、またインターネットを介して提供されるサービスが大多数のため、国境を超えて世界市場での展開を、今後の企業成長プランに入れることができるかどうか重要となることから、ICT業界特有の英語表現を学修することで、先端技術を英語で読み・考え・議論するための素養を修得する。	
職業専門科目	オペレーティングシステム	すべてのプログラムはオペレーティングシステム(OS)の管理下で実行される。本講義では、プロセス管理、入出力管理、記憶管理など、コンピュータの構成要素を制御して情報処理を効率的に行うためのOSの基本的機能とその原理を学修し、情報処理システムの動作の全貌を理解する。Linuxを例にあげた具体的説明を通じ、Linuxの基本構成についても併せて習得する。	
職業専門科目	コンピュータアーキテクチャ	本講義では、コンピュータの基本的設計としての「アーキテクチャ」の意味を理解するとともに、ノイマン型コンピュータの基本構成と、その動作について学修する。併せて典型的アーキテクチャの具体例を取り上げ、その概要を理解し、今後の講義、演習および実習を受講するための基礎とする。	

授業科目の概要 (情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	線形代数	行列やベクトル、写像と線形性の概念は、今日、数学のあらゆる分野で重要な役割を果たしており、数学に基づく諸科学においても欠くことのできない概念となっている。線形代数では、これらの基礎的な概念や基本的な演算能力を習得し、専門科目に応用できることを目標とする。	
職業専門科目	微分積分	微分積分は数学のみならず、現代の自然科学の基礎であり、その応用範囲は広大である。本講義では、専門分野への応用に備えて、微分積分法の基本事項の習得を目標とする。	
職業専門科目	確率論	確率の概念および、確率変数、確率変数の関数、近似理論など、確率の基礎を学修するとともに、その応用例についても触れることで、確率の必要性を理解するとともに、統計学及び、さらにその先に続く多様な情報学へ取り組むための素養とする。	
職業専門科目	統計学	膨大なデータを収集し分析/解析するデータサイエンスの基礎として、基本統計量、検定、推定理論など、記述統計学・推測統計学を学修し、さらに、回帰分析、多変量解析の基礎を学修する。	
職業専門科目	データ構造とアルゴリズム	計算機で扱われる基本的なデータ構造と、それら进行操作する「探索」、「ソート」、「マージ」等に関する基本的アルゴリズムを学び、その背景にあるアルゴリズムの設計法について学び、それらの特性と計算量との関係を理解することで、効率的なプログラムを設計するための素養を養う。	
職業専門科目	プログラミング I	C言語を用い、変数、ポインタ、条件分岐、関数呼び出し、入出力等、データ構造と制御に係るプログラミングの基礎を学修する。さらにC++を用い、オブジェクト指向の基本を学修する。Linux環境で実施する課題を課し、Linuxの基本コマンド、Emacsによるエディティング等、プログラミングに必要な各種操作についても併せて習得する。	
職業専門科目	プログラミング II	プログラミング I の知識を基に、Pythonプログラミングの言語仕様を学ぶだけでなく、実現したいことを理解し、説明できるレベルまで整理し、コンピュータが処理できる形に翻訳するというプログラミング開発一連の流れを体験するとともに、バージョン管理や例外処理といった、開発周りの諸技術を体験することで、開発の流れを踏まえて作業することができる技術を身に付ける。	
職業専門科目	ネットワークプログラミング実習	プログラミング II 及びネットワーク演習で修得した基礎知識を基に、Webページの設計、Webアプリケーション構築などの実習を通して、WebブラウザとWebサーバの間でどのようなやりとりが行われているのか、プログラムがどのようにデータを処理しているのかなど、ネットワーク上で情報をやりとりするプログラムに関する一連の知識・技術を修得する。	共同
職業専門科目	API実習	アプリケーションプログラミングインタフェースとは、ソフトウェアコンポーネントが互いにやりとりするのに使用するインタフェースの仕様であることについて理解したうえで、自分や他人の創ったプログラム機能を公開し共有することでプログラム開発の生産性を高めるAPI技術について実習を通じて学修する。設計、プログラミング、実装、検証の一連の工程を通じて、体系的に実践スキルを修得することで、Web系API開発を題材に実用面での技術課題として、セキュリティリスクと適切な対応について学修するとともに、オリジナルのAPIの設計実装に挑み、共有・相互利用について体系的に学修する。	

授業科目の概要 (情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	情報通信ネットワーク	ネットワーク通信を実現する基礎技術と技術的特徴について、また通信技術の階層構造や、各階層の原理や特徴について理解する。これにより、ネットワーク技術の根幹を成す不変の要素や将来の変化の方向性についての知識習得を図ることで、通信技術の現在と将来に対応できる理解を得ることとともに今後のネットワーク演習や実習を受講するための素養を養う。	
職業専門科目	ネットワーク演習	単元毎にルータ等のネットワーク機器やパソコンを各自操作し、講義内容を確認する演習の形態で進める。情報通信ネットワークで修得した基礎知識を基に、情報通信ネットワークの構造及び管理・運用体制について具体的知識を習得するとともに、一般的なネットワーク機器の基本的操作法を習得することにより、情報通信ネットワークを、様々なサービスを提供・享受するための基盤として安全に活用できる素養を身に付ける。	
職業専門科目	分散型台帳技術	分散型台帳技術は、特定の帳簿管理者を置かず、参加者が同じ帳簿を共有しながら、資産や権利の移転などを記録していく情報技術であることについて理解する。分散型台帳技術は、デジタル・データを用いつつ、これを「分散型」の仕組みで処理することについて、代表的な技術であるブロックチェーンの仕組み・技術を学修し、将来の利活用に向け技術的課題や今後急拡大する分散型志向の設計と制作を実践的に学修する。	講義 15時間 演習 15時間
職業専門科目	情報セキュリティ	社会の基盤となっている情報システムに対し、安心・安全な情報システムの実現が求められている。本講義では、情報セキュリティの概要と、情報セキュリティを理解するため背景にある理論的な内容について学修することで、安心・安全な情報システムを実現するための原理や設計方法を理解し、今後の演習および実習を受講するための素養を養う。	
職業専門科目	サイバーセキュリティ演習	能動的で積極的なサイバーセキュリティを実践するために、セキュリティ問題の予防措置とその運用、さらに脅威度を判定する能力を修得する。また、コンピュータ・セキュリティ・インシデント・レスポンス・チームについて学修することで、インシデントレスポンス能力の向上を図り、バンダー任せではなく、日常のシステム運用等を考慮しながら、事業継続を脅かす攻撃に対処することができる情報システム管理能力を修得する。	
職業専門科目	サイバーセキュリティ実習	サイバーセキュリティ演習の内容を踏まえ、高度化するサイバー攻撃に対抗するには、攻撃者と同等もしくはそれ以上のハッキング手法、およびマルウェア解析技術が必要であることについて理解するとともに、ハッキングやマルウェア解析に焦点をあてた実習を通して、実践的な技術を修得する。具体的には情報収集、脆弱性識別、エクスプロイト実行、パスワード解読、マルウェア(トロイの木馬、バックドア等)による攻撃および盗聴について学修するとともに、その対抗技術について理解する。	
職業専門科目	データベースの基礎	データを組織化して一括管理するデータベースについて、その基本であるリレーショナルデータベースをについて、データモデル、データベース設計、データ操作言語、及び、データベース管理システムの概要について学ぶ。併せてオブジェクト指向データベース、NoSQLについても触れ、データベースへの視野を広げる。	

授業科目の概要 (情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	データベース演習	データベースの基礎で修得した基礎知識を基に、データベースの構造及び管理・運用について単元毎に実際のシステムを操作しながら具体的技術を習得するとともに、データベース管理システムの基本的操作法を習得することにより、高度な情報人材となるために必要なデータベース分野の技術を体系的に修得する。	
職業専門科目	システムモデリング	本講義では、情報システムを開発・設計する技術、情報システムの効果を得るための技術に関する原理や設計方法としてモデリングや要求定義等について理解することで、今後の演習および情報システムを構築する各種の実習を受講するための素養を養う。	
職業専門科目	システム開発技術	多数のコンピュータ、スマートデバイスで稼働する多機能な業務システムの設計を、ネットワークの活用も含め学修する。また対象業務の分析や要件定義、外部設計など、システム開発の工程に係わる者、いわゆるシステムエンジニアを対象とし、業務に適したアーキテクチャ設計や全体最適化といった概念と、各種の工程で必要となる設計者向けの知識・技術を修得する。	
職業専門科目	臨地実務実習Ⅰ	専門職種を理解を深め、地域の企業や団体、商店街が抱える課題に主体的に取り組み、学内で身に付けた情報技術による課題解決策を提案するまでの過程を学修する。実習先企業の業務内容を理解し、他者と協力してデータの流れ(入手、加工、保管)から見える課題を把握しその解決法を考察する。実際にデータの入手、保管、整理、加工、分析、可視化を体験することで、課題を解決して、生産性・効率性を向上させる計画を立案・提案することで課題解決法を考察する態度と技術を理解する。	
職業専門科目	臨地実務実習Ⅱ	臨地実務実習Ⅰの内容を踏まえ、企業内実習の事前・事後および実習中の指導を通して、専門職種と職業領域において理論の考察に基づいた実践に取り組み、専門職種を理解を深め、地域の企業や団体、商店街が抱える課題に主体的に取り組み、学内で修得した知識・技術を活用し、解決策の提案から計画、設計、実装、検証という実務の一連の過程を学修する。長期にわたる実務により、企業現場におけるさまざまな現象、実態を認識し、経験することを通して、経済社会の課題に対して情報技術や情報手法を活用した課題解決策を実現することで、創造的な能力と実践的な態度を身に付ける。	
職業専門科目	クラウド技術概論	現代のICT環境として広く定着し、なお進化を続けるクラウド・コンピューティングについて、環境構築から開発運用のリードタイム短縮につながる技術の原理、とその有効活用方法を学修する。CPUやメモリのみならず、ストレージやネットワーク、アプリケーションなどの様々な機能の仮想化技術に限らず、さまざまな用途やサービス、ビジネス応用、今後の動向についても調査し、理解を深めて、クラウド・コンピューティングの演習・実習につながる基礎を修得する。	
職業専門科目	クラウドベーシック&マーケティング	Microsoft AzureやAmazon EC2など、インターネット経由の一般向けクラウド・コンピューティング・サービスを利活用したアプリケーション・システムの開発手法を学修する。パブリッククラウドの適切な設定とマネジメント能力、独自設計したアプリケーションからアクセスする技術を修得することで、高品質なサービスの生み出し方を学修し、マーケティングの視点から導入の有効性やビジネス性を確認することで、クラウド・コンピューティング・サービスについて体系的に修得する。	
職業専門科目	クラウドプラットフォーム実習Ⅰ	クラウド技術概論およびクラウドベーシック&マーケティングで学修した知識や技術を基とし、ケーススタディを用いた実習を通してクラウド・コンピューティングに利用されている各種コンポーネントを理解したうえで、ユーザービリティとセキュリティを高い次元で両立したサービスモデルを設計・構築する。	

授業科目の概要			
(情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	クラウドプラットフォーム実習Ⅱ	クラウドプラットフォーム実習Ⅰやクラウド技術概論およびクラウドベーシック&マーケティングで学修した知識や技術を基として、クラウドファーストアーキテクチャー、クラウドにおけるセキュリティ対策、ハイブリッドクラウドなどの実習を基にクラウドデザインパターンを学修する。	
職業専門科目	サイバーフィジカルシステム基礎	情報システムと現実世界とのインタフェースに関する原理や設計方法として、計算機(サイバー空間)と実世界(フィジカル空間)をつなぎ、様々な情報処理を行う技術について理解し、基礎となる機器や駆動装置、それらを制御するための制御理論に加え、人間の認知特性、画像処理、対話手法などの特徴について学修し、今後の演習および実習を受講するための素養を養う。	
職業専門科目	I o T 演習	I o T (Internet of Things) とは、従来インターネットに接続されていなかった様々なセンサー機器、駆動装置、建物、車、電子機器などのモノが、ネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をする仕組みであることについて理解するとともに、I o T を実現するハードウェア、アプリケーション、ネットワークと多種のインタフェースについて、ワンボードマイコンを用いた演習を通して学修する。	
職業専門科目	I o T 実習	I o T 演習にて修得した、各種機器とネットワークにおいて相互に情報交換をする仕組みを基として、具体的に製造業等での利活用を想定し、I o T 演習より大規模な I o T の構築・管理・検証を、実習を通して体系的に学修する。センサなどを実装した多数のデバイスをネットワークに接続し、各デバイス・ネットワークのコントロール・マネジメントを実施し、収集したデータを分析・解析し、その結果から各デバイスが配置・設置された環境や内容の改善するための実習を行う。	
職業専門科目	ハードウェア設計	コンピュータやスマートデバイス、各種センサー類を活用し、求められる機能・性能を実現するハードウェアの設計能力を修得する。ハードウェア設計技術者には、最新の技術を使った高性能な製品や、新しい発想を取り入れた魅力的な製品の開発が期待されていることから、設計が実際に製造・製作に用いることができるかどうかを検証するとともに、ロボットやIoTの実践・実習でも必要となる3Dスキャナ・3Dプリンター等の機器の利活用技法についても学修する。	講義10時間 演習20時間
職業専門科目	ロボティクス実習	製造・医療・広告・宅配等、様々な業種・業界でドローン・ロボットの利用が拡大され、求められる機能も多様化・複雑化がますます進むと考えられる中、ハードウェアの設計能力を基として、単腕ロボットやヒューマノイド型ロボットの運動制御、およびそのためのシステムインテグレーションを修得する。また、構造体・動力伝達部位などを構成するアクチュエータ・モーターの原理・機構や制御プログラミングなどについて学修する。	
職業専門科目	没入型コンピューティング	没入型コンピューティングとは、ユーザーの五感を含む感覚を刺激する技術であることについて理解したうえで、仮想現実(VR)実装技術の修得から、その有効性・可能性をユーザー体験により学修する。更にセンサーやカメラ、入力デバイスなどの各種ハードウェアの取り扱いや、表現の違い、拡張現実(AR)、複合現実(MR)についての理解を深め、XRコンテンツを制作するためのソフトウェア・コンテンツ開発技術を修得する。	講義10時間 演習20時間
職業専門科目	没入型コンピューティング実習	没入型コンピューティングの学修内容であるハードウェア・ソフトウェア・コンテンツ各面の違いについて理解を基に、実際の業務・エンタテインメントでの利用を前提に、ユーザーの心理的・肉体的負担なども考慮したコンテンツの作成を行う。また、仮想現実(VR)、拡張現実(AR)、複合現実(MR)などの先端技術を総合的な学修により作成したコンテンツの発表会を行う。	

授業科目の概要 (情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	ユーザエクスペリエンス	ユーザエクスペリエンスとは、製品やサービスの利用を通じてユーザーが得る経験であり、よいユーザエクスペリエンスを達成するための理論とプロセスや手法に関する知識について学修する。具体的には、ユーザエクスペリエンスデザインが求められる背景、基礎知識、ユーザエクスペリエンスデザインの要素と関係性、人間中心デザインプロセス、利用文脈とユーザー体験の把握、ユーザー体験のモデル化と体験価値の探索、プロトタイプの反復による製品・サービスの詳細化などについて、講義と演習により体系的に学修する。	講義10時間 演習20時間
職業専門科目	情報科学基礎	情報をどのように表現し、伝送するか。情報を処理するとはどういうことか。これらを体系化した学問である「情報理論」と「離散数学」の基礎を学ぶことで、情報に関する専門分野を学修するための素養を養う。	
職業専門科目	知識表現・知識処理	幅広い分野に渡る人工知能(AI)の体系および歴史を概観したうえで、その一つの柱である知識表現・知識処理の分野を取り上げ、記号論理、意味ネットワーク、フレーム理論等の理論を学ぶとともに、セマンティックWEB、OWL言語、プロダクションシステム等の応用技術を、演習を交えながら学ぶ。構文解析などの自然言語処理技術にも触れ、さらに具体的な知識表現・知識処理を学ぶための基礎力を養う。	
職業専門科目	AI実習	知識表現・知識処理、統計学で習得した知識を元に、知識の表現、オントロジー技術、推論など、AIの要素技術について、実社会において生成されたデータセットを活用して、データやプログラム・アプリケーションを作成する実習を通して技術・知識を習得する。具体的には、RDFやXMLを用いた知識表現、ウェブ・オントロジー言語ユースケース、共通辞書の活用、SPARQLによる検索などを行う。	
職業専門科目	マシンラーニング	マシンラーニング(機械学習)とは、人工知能における研究課題の一つで、人間が自然に行っている学習能力と同様の機能を、コンピュータで実現しようとする技術・手法であることについて理解するとともに、AI技術の一つであるマシンラーニングについて、演習を通して学修する。また、マシンラーニングによる特徴表現学習についての理解を深めると同時に、Linux・Python・オープンソースなどを用いて、自ら実行環境の設計・構築を行えるスキルを修得する。	講義10時間 演習20時間
職業専門科目	マシンラーニング実習	マシンラーニングの内容を踏まえ、商用分野におけるアプリケーションに、機械学習がどのように利用されているかを理解するとともに、本格的なAIアプリケーションに必要とされる大規模ニューラルネットワークの実装とその応用法を理解する。主に、大規模深層学習、音声認識、自然言語処理、その他AI活用などの実アプリケーションの実装を通し、自ら実行環境の設計・構築を行えるスキルを養成する。	
職業専門科目	データサイエンス演習	データを取得し、必要な前処理を行い、蓄積し、分析するといった、データサイエンスの流れを理解すると共に、そこに必要な各要素技術を習得することにより、大量のデータを分析し、そこから価値を引き出すための基礎となる力を身につける。	講義10時間 演習20時間

授業科目の概要			
(情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	データサイエンス実習	データサイエンス演習で習得した基礎知識を元に、Google Cloud Machine Learningや、Amazon Machine Learningといったクラウドを用いて、Webサイトのアクセスログやウィキペディアのデータダンプなどの単純で大量のデータに対して実際に適用する実習を通し、データから「価値」を見つけ出す手法を実践的に学修する。	
職業専門科目	データマイニング演習	データマイニングを、データから価値を引き出す手法群であると考え、データ解析ツールとしてR言語を学ぶと共に、データ解析の各手法を習得する。具体的には、R言語の演習にくわえ、回帰分析、決定木、アソシエーションルール分析、質的比較分析、テキストデータ分析についてR言語を活用した演習を行う。	
職業専門科目	ICT演習(ハードウェア/ソフトウェア)	ICT分野におけるハードウェア・ソフトウェアを理解し、より複雑なICT環境をサポートする際に必要となるスキルと知識を体系的に学修する。具体的にはPCやモバイル機器、ノートPCといったハード面、オペレーティングシステムといったソフト面、またプリンターなどの周辺機器に関連した運用・管理メンテナンス、ネットワーク、セキュリティの基礎を理解し、スキル・知識・適切なトラブルシューティングスキルの修得を目指す。	
職業専門科目	ICT演習(セキュリティ)	セキュリティインシデントに対応するためのセキュリティ概念、ツール、対応手順に関連する知識やスキルを修得するとともに、セキュリティインシデントの発生を予防するため定期的、日常的に実施されるべき運用セキュリティ、セキュリティの脅威や脆弱性についての知識やスキルを体系的に学修する。具体的には、ネットワークセキュリティ、コンプライアンスと運用セキュリティ、脅威と脆弱性、アプリケーション、データ、ホスティングセキュリティ、アクセスコントロール、認証マネジメント、暗号化などのスキルや知識を修得する。	
職業専門科目	ICT演習(基本情報)	高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、基本戦略立案又はITソリューション・製品・サービスを実現する業務に従事し、上位者の指導の下に次のいずれかの役割を果たす際に、必要となるスキルと知識を体系的に学修する。企業経営、社会システムが直面する課題に対して、情報技術を活用した戦略を立案し、システムの設計・開発を行い、又は汎用製品の最適組合せ(インテグレーション)によって、信頼性・生産性の高いシステムを構築、また、その安定的な運用サービスの実現について学修する。	
職業専門科目	ICT演習(クラウド)	クラウドの運用やクラウドサービスの提供など、クラウド環境で業務を実行するエンジニアが必要とされる、セキュアなクラウド環境の実装と、運用スキルとベストプラクティスへの理解とともに、クラウドの運用やクラウドサービスの提供など、クラウド環境で業務を実行するエンジニアが必要とされる、知識や技術を体系的に学修する。具体的には、クラウドのコンポーネントとモデル、仮想化、インフラストラクチャ、リソースマネジメント、セキュリティ、システムマネジメント、クラウドを活用した事業継続などのスキルや知識を修得する。	
職業専門科目	ICT演習(応用情報)	高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、基本戦略立案、又はITソリューション・製品・サービスを実現する業務に従事し、独力で次のいずれかの役割を果たす際に、必要となるスキルと知識を体系的に学修する。企業経営、社会システムなどの需要者が直面する課題に対して、情報技術を活用した戦略の立案、システムの設計・開発を実施し、又は汎用製品の最適組合せ(インテグレーション)による信頼性・生産性の高いシステムの構築、また、その安定的な運用サービスの実現について学修する。	

授業科目の概要			
(情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	ICT演習 (IoT)	I o Tに関し、技術的な視点だけでなく、マーケティングやサービスの提供、ユーザーの視点から必要となるカテゴリ、スキル要件などを網羅し、それぞれの立場でI o Tを企画・開発・利用するために必要なスキルと知識を体系的に学修する。具体的には、戦略とマネジメント、産業システムと標準化、法律、ネットワーク、デバイス、プラットフォーム、データ分析、セキュリティなどのスキルや知識を修得する。	
職業専門科目	ICT演習 (マシンラーニング)	マシンラーニング技術の可能性と限界を正しく理解し、事業に活用するための知識を体系的に学修する。ディープラーニングを含むさまざまな機械学習技術に加え、ディープラーニングをベースにしたAIの技術的発展とその社会応用、法制度やプライバシー、倫理面の問題など、人工知能、機械学習、ディープラーニングに関する俯瞰的な理解をもつことで、経営層に対し適切な活用方針を提案し事業応用を可能とするような能力を養成する。	
職業専門科目	ICT演習 (セキュリティスペシャリスト)	セキュリティ機能の企画・要件定義・開発・運用・保守を、推進又は支援する業務、若しくはセキュアな情報システム基盤を整備する業務に従事し、次の役割を果たす際に必要となるスキルと知識を体系的に学修する。①情報システムの脅威・脆弱性を分析、評価し、これらを適切に回避、防止するセキュリティ機能の企画・要件定義・開発を推進又は支援する。②情報システム又はセキュリティ機能の開発プロジェクトにおいて、情報システムへの脅威を分析し、プロジェクト管理を適切に支援する。	
職業専門科目	ICT演習(組込システム)	自動車、家電、モバイル機器などに搭載する組込みシステムについて、次のいずれかの役割を果たす際に必要となるスキルと知識を体系的に学修する。①組込みシステムを対象として、機能仕様とリアルタイム性を最適に実現するハードウェアとソフトウェアのトレードオフに基づく機能分担を図り、設計書・仕様書の作成を実施する。②組込みシステム開発における各工程の作業を、主導的に実施する。③特定の技術・製品分野についての高度で専門的な知識・開発経験を基に、開発する当該分野の専門家から技術上の知識を獲得して、開発の各工程に反映させる。	
職業専門科目	ICT演習 (データベーススペシャリスト)	データ資源、及びデータベースを企画・要件定義・開発・運用・保守する業務に従事し、次の役割を果たす際に必要となるスキルと知識を体系的に学修する。①データ管理者として、情報システム全体のデータ資源を管理する。②データベースシステムに対する要求を分析し、効率性・信頼性・安全性を考慮した企画・要件定義・開発・運用・保守を実施する。③個別システム開発の企画・要件定義・開発・運用・保守において、データベース関連の技術支援を実施する。	
展開科目	新潟と地域社会	新潟県や新潟県内の各地域の地理や歴史、文化、産業などの基本的な事項についての知識・情報を修得するとともに、地域の現状と課題について考察することで新潟という地域社会に関する理解を深める。基本的には新潟の地を題材に、授業を進めていくこととするが、必要に応じて他地域の事例等も取り上げ、新潟の地域社会と比較考察することで、理解を深める。	
展開科目	デザイン・シンキング概論	デザインに必要な考え方や手法等を駆使して課題解決手法や新しい商品・サービスを生み出す手法であるデザイン・シンキングの考え方を学修する。また、この考え方が考案された経緯など、基礎から他の解決手法を比較し学修する。この前提の理解を踏まえ、問題意識を持って自ら課題を発見し、その課題を解決するための手法やプロセス、チームでの課題解決に必要なチームワークやコミュニケーション力、ディベート力の必要性について学修する。	

授業科目の概要 (情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	ソーシャルデザイン I	1年次において学修した課題解決手法のひとつであるデザインシンキングに関連する学びとして、地域振興の在り方について、具体的な事例を基に考察する。これらの事例の考察を通じて、地域社会におけるブランドの概念や目的を踏まえた基本的な着眼点や企画・構成等、どのように体系化されているのかを学修する。また、地域社会のみに止まらず、様々な社会問題を解決するための手法、プロセス等を理論的かつ実践的に理解する。	
展開科目	ソーシャルデザイン II	ソーシャルデザイン I の発展的な学修として、地域政策に関する具体的な事例を基に考察し、基礎的な概念を理解する。これらの事例の考察を通じ、地域政策の概念と意義や地域政策における政府や地方公共団体が担う役割について解説したうえで、地方分権化の進展度を踏まえ、地域の魅力を高めるための地域政策の在り方や最新の動向について学修する。また、具体的な事例の比較分析により、今後の地域社会における公共政策の課題や問題点、あるべき方向性などについて考察する。	
展開科目	ソーシャルデザイン実習	1年次において学修した課題解決手法のひとつであるデザインシンキングの理論を基に、地域社会が抱える問題や課題に関する実際の事例にあてはめて、課題解決のためのプラン策定実習を行う。なお、実習の進め方としてはグループワーク、グループ討議、グループ発表を中心に進め、発表されたプランの中で教員・学生より高く支持された優秀なプランについては、実際の対象団体、自治体等へのプレゼンテーションも行う。	集中
展開科目	デザイン・シンキング実習 I	デザイン・シンキング概論にて修得した課題解決の各種手法を実践するため、少人数グループを作り、調査・情報収集を実施し、課題を見つけ、解決策を検討・実施評価するデザイン・シンキング手法を特にその後の課題解決案の検討を重視して実施する。有効と考えられる解決方法を、ブレインストーミングを基本にしなが積極的に各グループ内で検討し、解決策をビジュアル化・デザイン化して発表を実施する。 (オムニバス方式/全15回) (6 石塚昭彦/7回) 大学生への新しいサービスの提案を課題として、方針の検討から計画の立案、調査、検討、実行、提案までの一連の流れについて学修する。 (33 森下晶代/8回) 大学における新しいサービスの提案を課題として、方針の検討から計画の立案、調査、検討、実行、提案までの一連の流れについて学修する。	オムニバス
展開科目	デザイン・シンキング実習 II	デザイン・シンキング概論およびデザイン・シンキング実習 I にて修得した課題解決の各種手法を実践するため、少人数グループを作り、調査・情報収集を実施し、課題を見つけ、解決策を検討・実施・評価するデザイン・シンキング手法について、特にその後の課題解決案の検討を重視して実施する。またデザイン思考に必要なとされる5つのプロセス「共感」「問題定義」「アイデア創造」「プロトタイプ」「テスト」を実践し、繰り返し体験することで、製品やサービスを完成へ導く技法を修得する。	
展開科目	情報産業論	情報産業とは、情報の収集、整理、分析、加工、伝達等により、価値を生み出す産業であることについて解説するとともに、生活や産業のあらゆる場面は情報を基盤として成り立っており、情報産業の発展なしに、人類の発展は無いことについて理解する。また、技術や社会の進化の中で「情報」がどのように取り扱われてきたかを振り返るとともに、その発展の方向性や意義、課題について考察することで、情報産業の本質を理解し、それを活用し、未来を切り開く力を養成する。	
展開科目	国際文化と伝統	日本文化はその発端から現在にいたるまで、他の文化との深い関わりのなかで成り立ってきたことについて理解するとともに、自らが属する文明の性格とその成立や歴史に関する基本的な認識を身に付ける。また、他国民とのかかわり合いを持つときに、摩擦や緊張が起りうることについて理解したうえで、グローバルな視点を深め、異文化理解を進めるために国際文化交流の基礎となる日本と世界の伝統文化や生活文化について学修する。	

授業科目の概要 (情報学部情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	社会心理・消費者行動	人間の消費行動について、ニーズから購入までの心理の変化や行動の変化、商品の選択や購入に影響を与える様々な要因が社会心理や消費者行動の中で明らかになっていることについて解説する。また、マーケティング実務に関する具体的な事例の考察を通して、心理学基礎、社会心理学、認知心理学、コミュニケーション、および意思決定の視点から、消費者行動に関する知識を修得するとともに、マーケティング戦略の構築における社会心理・消費者行動の重要性について考える。	
展開科目	マーケティング	現代社会の中で企業などの組織を、より良い形で運営していくには、マーケティングの発想が不可欠となっていることの理解及び市場を起点に物事を発想するマーケティングの基礎概念・基礎的知識を修得する。企業戦略とマーケティング・プロセス、マーケティング・リサーチと情報システム、消費者の購買行動、企業の購買行動、マーケティング戦略の展開とマーケティング・ミックス、製品ライフサイクル戦略、価格設定の課題と戦略の基本などマーケティングの基礎を修得する。	講義15時間 演習15時間
展開科目	マーケティング実践	社会心理・消費者行動、およびマーケティングによって修得した、マーケティング戦略の基礎知識と心理学の基礎知識、社会心理学、認知心理学などと、情報通信に関する専門的技術を連関させ、企業などの組織をより良い形で運営していくには、マーケティングの発想が不可欠となっていることについて理解を深める。また、マーケティングの基礎概念・基礎的知識の実践面への適用とともに、マーケティングの発想法・実務的な活用法を修得することで、市場を起点に物事を発想することについて理解する。	集中
総合科目	ICT活用総合実習	ICT分野の専門職業人として、実践的かつ応用的な能力を総合的に高めるために、職業専門科目を中心に身につけた知識・技能を統合した総合的な実習を行う。具体的には課題解決のための調査、学生同士や指導教員との議論、並びに共同作業等を通して、その解決法を考え、それを計画的・論理的に実行しICTを活用した課題を解決する課題解決能力を養う。併せて、課題解決の過程・結果・結論をまとめ、グループ討議や発表を通じて、コミュニケーション能力やディベート力、プレゼンテーション能力の向上を図る。	共同